

講義科目名称： 幼児の言葉

授業コード：

英文科目名称： Methods of Language Development

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
平中 尚子・山盛 淳子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EET3131131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 言葉についての内容理解と実践</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：乳幼児が言葉を獲得していく過程について理解し、基礎的な知識を身につける。 技能の観点：乳幼児が言葉に対する感覚を豊かにするための実践について理解し、事例を挙げて説明できる。 態度の観点：グループ討議や素話・絵本の読み聞かせの実践に主体的に取り組むことができる。</p>
授業の概要	<p>領域「言葉」のねらい及び内容について理解し、乳幼児が遊びや生活を通して言葉を獲得していく過程について学ぶ。また、乳幼児の言葉に対する感覚を豊かにするための環境や援助について、理論をもとにグループ討議や素話等に取り組み、実践技術の基礎を身につける。本講義では、幼稚園及びこども園での実務経験のある担当教員が、実務経験を活かし、乳幼児期の言葉の発達について、具体的事例をもとに解説する。さらに、乳幼児の言葉を育むための保育実践について講義する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、「言葉」とは ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における5領域の概要説明。乳幼児の言葉を育てる環境や人の関わりについて実態を考える。 【事前学習】シラバスを確認し講義の概要を理解する。(2時間) 【事後学習】講義の概要から「言葉」についての感想を書き提出する。(2時間)</p> <p>第2回 「言葉」とは ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 人間にとっての「言葉」の果たす役割を理解する。 【事前学習】教科書を読んで言葉の機能について調べる。(2時間) 【事後学習】言葉の働きを具体的に考えノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 保育内容としての「言葉」の歴史 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育内容としての言葉の歴史と法令について理解する。 【事前学習】教科書を読んで保育内容「言葉」の変遷を調べる。(2時間) 【事後学習】保育者として知っておくべき法令(学校教育法、児童福祉法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針)について調べる。(2時間)</p> <p>第4回 領域「言葉」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における保育内容としての領域「言葉」を理解する。 【事前学習】3法令の改訂のポイントを調べる。(2時間) 【事後学習】5領域と求められる資質と10の姿についてノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 乳幼児の発達と言葉①～0歳児～ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳児期における言葉の発達について学ぶ。 【事前学習】「乳児が泣く」ときはどのようなときか考え、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】乳児が泣いたり笑ったりした時、指差しした時等、保育者としてどのように関わればよいかノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 乳幼児の発達と言葉②～1・2歳児～ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 1・2歳児における言葉の発達について学ぶ。 【事前学習】教科書を読み、1・2歳児の子どもが話す言葉の特徴をノートにまとめる(2時間) 【事後学習】幼児語・幼字音を調べ、レポートにまとめ提出する。(2時間)</p> <p>第7回 乳幼児の発達と言葉③～3歳児～ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 3歳児における言葉の発達について学ぶ。 【事前学習】3歳児の成長発達過程を調べ、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】0～3歳児の言葉の発達について、概要をまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 乳幼児の発達と言葉④～4歳児～ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 4歳児における言葉の発達について学ぶ。 【事前学習】4歳児の成長発達過程を調べ、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】大勢の中で「聞く-話す」を読み、感想をレポートに書く。(2時間)</p> <p>第9回 乳幼児の発達と言葉⑤～5歳児～ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 5歳児における言葉の発達について学び、小学校接続期について理解する。 【事前学習】5歳児の成長発達過程を調べノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】乳幼児期の「聞く-話す-読む-書く」の発達と小学校学習指導要領「国語科」のつながりについてノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第10回 言葉を育むための保育者の関わり ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 言葉を育むための保育者の関わりと役割、幼児の対話的な学びについて理解する。 【事前学習】話し合い場面、けんか・トラブル場面での保育者の役割を読みノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】保育者の「ことばかけ」とはどのようなことか、教科書を読みノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第11回 言葉を育む児童文化と地域文化 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 児童文化と地域文化について学ぶ。また、沖縄の昔話について素話を発表し、グループ討議をす</p>

	<p>る。</p> <p>【事前学習】 沖縄の昔話を調べ、口演できるように練習する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 口演について振り返り(声量・表情・身振り)、感想を書いて提出する。(2時間)</p> <p>第12回 言葉と想像力 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 言葉と想像力の関係、素話の意義について学ぶ。また、沖縄の昔話について素話を発表し、グループ討議をする。 【事前学習】 生まれ育った地域の昔話を調べ、レポートにまとめる。(2時間)</p> <p>第13回 指導計画と「言葉」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 指導案の作成について学ぶ。また、わらべ歌を使った指導案を作成し、グループで実演する。 【事前学習】 自分の知っているわらべ歌をノートに書き出す。(2時間)</p> <p>第14回 家庭との連携と「言葉」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 人間関係や言葉を育む「ごっこ遊び」を実演し意義を考える。(模擬保育)</p> <p>第15回 「言葉」をめぐる課題 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】 自分の幼少のころの遊びを想起しノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第16回 「言葉」をめぐる新たな課題(文明・メディアの発達・早期教育・外国教育・異文化のコミュニケーション)があることを理解する。 【事後学習】 5領域の中からごっこ遊びについての記述を調べ、5領域の関係をノートにまとめる。(2時間)</p> <p>【事後学習】 社会の便利さは子どもの成長にどのような影響があるか考えノートにまとめる。(2時間)</p> <p>【事後学習】 文明・メディアによる発達への影響について、ノートにまとめる。(2時間)</p> <p>なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	『コンパス 保育内容 言葉 第二版』内藤和美・新井美保子(編著) 建帛社 2018年
参考書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年</p>
評価方法	小テスト：30% 課題の提出状況と内容：10%，実演：20%，絵本カード：30%，受講態度：10%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) -：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>提出物は期限厳守、実技は必須</p> <p>学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が言葉を豊かに話せるよう努める</p>
オフィスアワー	毎週*曜日*限目 平中研究室(西研2-8)
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価後に返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
照屋 建太			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3232141	※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを用いる。	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 幼児の生活技能と基本的生活習慣の理解と実践</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：学生自身が社会人として、保育者としての生活技能を身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学び、理解することができる。 技能の観点：乳幼児期の発達と生活技能について関心を持ち、その特色を説明できる。 態度の観点：質問に対して積極的に回答することができる。グループ活動では、協調して行動できる。</p>
授業の概要	人として生きる力の基礎、特に基本的な生活習慣は幼児期に育まれることを鑑み、保育者としての指導の在り方を探求し事例等を通して、理論や実技を身に付ける。また、自らの生活を顧みる。演習を通して、自分自身の生活を律することができるようになる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼児の基本的生活習慣について考える ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児期の子どもの生活や基本的な生活習慣の重要性について理解し、近年の家庭教育力や子育て機能等が低下等について、沖縄県の現状等について関心をもつ。 【事前学習】子どもの生活や基本的な生活習慣について考えておくこと。(30分) 【事後学習】自らの生活を振り返り、自身資質の現状について考え、ノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」食事の習慣 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 食生活における食情報の氾濫や安全の問題等を通して、幼児期には食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味・関心、よく噛んで何でも食べられる食生活の基本を身につけさせるためのポイントを理解することができる。 【事前学習】テキスト「食事の習慣」を読み、まとめておくこと。(30分) 【事後学習】演習の内容を受け、食事の習慣の要点をノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第3回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」睡眠の習慣 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 近年の子ども達の睡眠状況について関心を持ち、睡眠の重要性や発達との関わりについて理解することができる。 【事前学習】テキスト「睡眠の習慣」を読み、まとめておくこと。(30分) 【事後学習】演習の内容を受け、睡眠の習慣の要点をノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第4回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」排泄の習慣 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 子どもが安心して排泄できる環境、心地よい排泄の習慣が身に付く環境の工夫ができる。 【事前学習】テキスト「排泄の習慣」を読み、まとめておくこと。(30分) 【事後学習】演習の内容を受け、排泄の習慣の要点をノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第5回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」着脱衣の習慣 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 衣服の役割や重要性、幼児の発達に即した衣服の着脱の仕方等を理解し、子どもへの支援ができるようになる。 【事前学習】テキスト「着脱衣の習慣」を読み、まとめておくこと。(30分) 【事後学習】演習の内容を受け、着脱衣の習慣の要点をノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第6回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」清潔の習慣 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼児期のうちから身に付けることについてをディスカッションを行い、健康に暮らすために欠くことのできない習慣であることを理解する。 【事前学習】テキスト「清潔の習慣」を読み、まとめておくこと。(30分) 【事後学習】演習の内容を受け、清潔の習慣の要点をノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第7回 衣・食・住に関する技能 (チラシのリサイクル、箸の持ち方) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 チラシを利用した折り紙を作る。箸の正しい持ち方を確認し、自らの持ち方が正しいか確認する。 【事前学習】簡単に折れる折り紙を調べておく。箸の正しい持ち方を確認しておく。(30分) 【事後学習】折り紙や箸の持ち方を再度確認する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第8回 衣・食・住に関する技能 (紐の結び方)、身のまわりの生活技能① (カッターの使用法) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 近年は便利な生活になり、直接手を使う体験や見て学ぶ機会が減少している。これらについて関心を持ち、正しい使い方等を学ぶ。 【事前学習】生活の中で、手を使うことの大切さについて考えておくこと。(30分)</p>

第9回	<p>【事後学習】生活に必要な動作や技術を一つ一つ丁寧にを行うとは何か考え、ノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>常識マナー・保育現場での心構え ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>子どもや保護者、先輩保育者等と接する時の基本的な姿勢、社会人としてのマナー等について学ぶ。</p> <p>【事前学習】保育実習等を振り返り、一般常識やマナー、保育現場での心構えについて考えておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】日々の生活において自分磨きとは何か考え、ノート等にまとめる。振り返りコメントを書く。(30分)</p>
第10回	<p>身のまわりの生活技能(手紙の書き方) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>手紙や葉書の書き方について、時候の挨拶等を学ぶ。実際に手紙を書く。</p> <p>【事前学習】手紙や葉書の一般的なマナーを調べておく。(30分)</p> <p>【事後学習】実際に友達へ手紙を書き渡す。振り返りコメントを書く。(60分)</p>
第11回	<p>園作り作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>園と家庭を結ぶ大切な架け橋の役目を果たし、教育効果を深めるものであることを学ぶ。保護者等に読んでもらえる園だよりを工夫し、作成する。</p> <p>【事前学習】園作り・学級だよりの役割について考え、必要な項目等をまとめること。(30分)</p> <p>【事後学習】授業後に作成した園作りを作成する。振り返りコメントを書く。(60分)</p>
第12回	<p>園作り作成および発表 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>各グループで作成した園作りを発表し、ディスカッションを行う。保護者に読みやすい園作りを考える。</p> <p>【事前学習】発表する園作りをグループで作成しておく。(30分)</p> <p>【事後学習】保護者が理解しやすい園作りについて、自らの考えをまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p>
第13回	<p>食育の実践事例(情報機器の活用) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>DVDを視聴し、内容についてグループ討議する。</p> <p>【事前学習】食育の実践について事前に学習しておく。(30分)</p> <p>【事後学習】DVDの内容について、各自レポートを提出する。グループで討議した内容を振り返りコメントに書く。(60分)</p>
第14回	<p>昔遊びについて ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>子どもの伝承遊びの現状と意義や遊び方等を学び、実際に遊んで知識・技能を習得する。</p> <p>【事前学習】伝承遊びの意義について、自らの考えをまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】伝承遊びのこれからの展開について自らの考えを、ノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p>
第15回	<p>幼児の生活についての振り返り、レポート作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>これまでの演習を通して学んだ基本的な生活習慣の本質について考える。</p> <p>【事前学習】幼児の生活技能と基本的な生活習慣について考える。これまでの講義を通して考えたことをノート等にまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】最終講義を受け、レポートにまとめる。振り返りコメントを書く。(60分)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	谷田貝公昭 2015年『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版
参考書	<p>厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>沖縄生物教育研究会編 2012年『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版</p> <p>その他、必要に応じて紹介する。</p>
評価方法	まとめのレポート(50%)、振り返りのコメント(30%)、課題(10%)、受講態度(10%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) - :出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。</p> <p>事後学習(振り返り)のコメントをMicrosoft Teamsから提出すること。(200字程度)</p> <p>※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。Microsoft Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時間にはスマートフォンやPCで参加できるように準備すること。</p>

オフィスアワー	(前期) 毎週月曜日 2限目 照屋研究室 (西研3-9) (後期) 毎週月曜日 2限目 照屋研究室 (西研3-9) ※遠隔授業期間においては, Microsoft Teams, メール等を利用し相談を行う (アドレス : teruken@ocjc.ac.jp)
課題に対する フィードバック方法	提出された課題は, 講義最終日に返却する。 ※遠隔授業の場合は, Microsoft Teamsを使用する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
照屋 建太			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131161	※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを用いる。	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育における飼育、栽培環境の理解と活用</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本や生き物の「命」の大切さ、乳幼児に与える影響について学生自身が体験しながらを身につける。飼育や栽培を行う必要があるかについて、実際に活動を行うことで理解することができる。 技能の観点：保育で飼育、栽培している生き物の特色について説明できる。 態度の観点：グループ活動では、仲間と協調できる。責任を持って生きものの世話ができる。</p>
授業の概要	<p>“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育や栽培活動を行い、人、社会、自然及び自分自身の生活についても考える。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、飼育栽培の意義について、グループ分け ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 飼育や栽培活動がなぜ保育に必要か講義し、実際に飼育や栽培するグループに分かれ活動内容を考える。 【事前学習】保育において飼育や栽培とは何か、考えておくこと。(30分) 【事後学習】グループ活動の内容について相談しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 基礎学習(植物の分類と特徴) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 植物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている植物について把握する。 【事前学習】基本的な植物の特徴について事前に調べておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第3回 飼育栽培実習(生き物を世話するための準備) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 生き物の世話をするために必要な道具を準備し、環境を整える。 【事前学習】グループで責任を持つ生き物の育て方を調べておくこと。(30分) 【事後学習】保育園や幼稚園、認定こども園における飼育の意義について、ノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第4回 飼育栽培実習(生き物の世話における注意点) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループで選択した飼育動物や栽培植物の飼育上の注意点をしっかり理解する。その後、世話を行う。 【事前学習】生き物の世話における注意点を調べておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第5回 基礎学習(動物の分類と特徴) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 動物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。 【事前学習】基本的な動物の分類と特徴を調べておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第6回 飼育栽培実習(生き物の環境維持) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループで世話をしている生き物の環境管理をしっかり継続する。 【事前学習】生き物の環境維持について考えておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第7回 飼育栽培実習(生き物の観察) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループで世話をしている生き物の変化に気付き、環境維持に努める方法を理解し、実践する。 【事前学習】生き物の環境維持と観察方法を考えておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第8回 基礎学習(飼育や栽培における土の影響) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 生き物への土壌の影響を学び、理解する。 【事前学習】基本的な沖縄の土壌性質について調べておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第9回 飼育栽培実習(生き物の観察と病気) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 生き物の病気や害虫の種類、そしてその対処方法について学び、実践する。 【事前学習】生き物の環境維持行い、病気や害虫について調べておくこと。(30分) 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第10回 飼育栽培実習(生き物の命の大切さ) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p>

	<p>生き物を育てる上で、命の大切さ、自然の尊さについて考える。 【事前学習】 生き物の環境維持をしっかり行い、生き物の命の尊さについて考えること。(30分) 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第11回 基礎学習(飼育や栽培における天気の影響) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 生き物への天気の影響を学び、理解する。 【事前学習】 基本的な天気について特徴を調べておくこと。(30分) 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第12回 レポート作成(レポートの書き方) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループ発表に向けてのレポート作成を行う。 【事前学習】 生き物の環境維持をしっかり行うこと。レポートのまとめ方について調べておくこと。(30分) 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。指摘を受けたレポートについて修正する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第13回 レポート作成(レポートとパワーポイント作成の要点) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループ発表に向けてのレポート作成およびパワーポイントの作成の要点を学ぶ。 【事前学習】 レポートのまとめを提出して添削を受けること。パワーポイントの作成方法を調べておくこと。(30分) 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。指摘を受けたレポートについて修正する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第14回 パワーポイントの作成とレポートの作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループ発表に向けてのレポート作成を行い、提出する。また、パワーポイントの作成を行う。 【事前学習】 レポートの最終提出を行うこと。パワーポイントを作成しアドバイスを受けること。(30分) 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。指摘を受けたレポートについて修正する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第15回 小テスト、グループ発表、まとめ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 各グループの飼育および栽培の結果について、レポートとともにパワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。 【事前学習】 プレゼンテーションの準備をしっかり行い、専門用語を理解しておくこと。(30分) 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行う。観察ノートに育てている生き物の様子を記録しておく。各グループの発表を受け、自らの考えをノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 沖縄生物教育研究会編 2012年『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 その他、必要に応じて紹介する。
評価方法	振り返りのコメント(30%)、レポート(20%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(20%)、小テスト(10%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満了し、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	演習には積極的に参加し、レポートは参考文献を利用してまとめること。提出物の提出期限をしっかり守ること。

	<p>レポート発表は、パワーポイントを用いて行い、質問に対しても簡潔に答えること。生き物の世話をしっかり行うこと。</p> <p>事後学習（振り返り）のコメントをMicrosoft Teamsから提出すること。（200字程度）</p> <p>※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。Microsoft Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるように準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>（前期）毎週月曜日 2限目 照屋研究室（西研3-9）</p> <p>（後期）毎週月曜日 2限目 照屋研究室（西研3-9）</p> <p>※遠隔授業期間においては、Microsoft Teams、メール等を利用し相談を行う（アドレス：teruken@oc.jc.ac.jp）</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>提出されたレポートは、講義最終日に各グループまとめて配付する。</p> <p>※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
糸洲 のぶ子・古謝 麻耶子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EET3131101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）の習得</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：子どもの音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎的知識を理解することができる。 技能の観点：音楽の知識や技術を習得し、幼児教育現場や保育現場で音楽の能力が発揮できるよう、ピアノや歌などの技能を身につける。 態度の観点：意欲的に授業と自主練習に取り組み、必修課題曲を修了することができる。</p>
授業の概要	<p>子どもの生活と音遊び、歌遊び、リズム遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、大学ピアノ教本では運指法、読譜などの初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な幼児曲やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法、歌唱の習熟を目指す（授業は予習型）。更に、意欲的に授業と自主練習に取り組み、クラスメイトとも協力し必修課題曲を修了する。 幼稚園等の学校現場や音楽教室において実務経験のある担当教員が、その経験を活かし、教育現場における音楽の基礎的技術を実践的に指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明 ・ピアノ奏法のウォーミングアップ 【事前学習】「大学ピアノ教本」のp.4に目を通し、音符と鍵盤の位置を確認する。(30分) 【事後学習】ピアノ奏法のウォーミングアップを復習し、獲得する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第2回 運指と読譜 『大学ピアノ教本』No.1～37はグループレッスンで進める。 ・『大学ピアノ教本』No.1～4 【事前学習】教本No.1～4を練習する。(30分) 【事後学習】教本No.1～4をスムーズに弾けるよう復習し、楽譜が読めるようになる。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第3回 ハ長調の音階 ・『大学ピアノ教本』No.5,9,11 ・ハ長調の音階(1オクターヴ)、調名、1度、5度の和音(I、V) 【事前学習】教本No.5,9,11を練習する。(30分) 【事後学習】教本No.5,9,11をスムーズに弾けるよう復習し、調名や和音についても理解を深める。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第4回 ハ長調の属7の和音 ・『大学ピアノ教本』No.13,17,21 ・属7度の和音(V7) ・分散和音の伴奏形 【事前学習】教本No.13,17,21を練習する。(30分) 【事後学習】教本No.13,17,21をスムーズに弾けるよう復習し、様々な分散和音の伴奏形を獲得する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第5回 ハ長調の音遊び ・『大学ピアノ教本』No.24,25 ・4度の和音(IV) 【事前学習】教本No.24,25を練習する。(30分) 【事後学習】教本No.24,25をスムーズに弾けるよう復習し、ハ長調の音遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第6回 ヘ長調の音遊び ・『大学ピアノ教本』No.27,32 ・ヘ長調の調名、音階(1オクターヴ)及び主要三和音 【事前学習】教本No.27,32を練習する。(30分) 【事後学習】教本No.27,32をスムーズに弾けるよう復習し、ヘ長調の音遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第7回 ト長調の音遊び ・『大学ピアノ教本』No.33,37 ・ト長調の調名、音階(1オクターヴ)及び主要三和音 【事前学習】教本No.33,37を練習する。(30分) 【事後学習】教本No.33,37をスムーズに弾けるよう復習し、ト長調の音遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第8回 調名、音階、和音のまとめ</p>

	<p>『大学ピアノ教本』No. 40～(No.40～No.65)は個人レッスンで進める(学生の習熟度によって進度が異なる)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『大学ピアノ教本』 ・音階、調名(ハ長調・ヘ長調・ト長調)及び和音(I・IV・V・V7)のまとめ <p>【事前学習】教本No. 40, 43を練習する。(30分) 【事後学習】それぞれの調の音階や和音を、弾く、書くなどして、復習する。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第9回 リズム遊び①-4分の4拍子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーチ「ビーマーチ」、「手をたたきましょう」 <p>【事前学習】「ビーマーチ」と「手をたたきましょう」を練習する。(30分) 【事後学習】「ビーマーチ」と「手をたたきましょう」をスムーズに弾けるよう復習し、4分の4拍子のリズム遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第10回 リズム遊び②-4分の3拍子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『大学ピアノ教本』 <p>【事前学習】教本No. 51を練習する。(30分) 【事後学習】教本No. 51をスムーズに弾けるよう復習し、4分の3拍子のリズム遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第11回 リズム遊び③-4分の2拍子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーチ「かけあしマーチ」 ・『大学ピアノ教本』 <p>【事前学習】「かけあしマーチ」と教本No. 56を練習する。(30分) 【事後学習】「かけあしマーチ」と教本No. 56をスムーズに弾けるよう復習し、4分の2拍子のリズム遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第12回 歌遊びと幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児曲「とんぼのめがね」 ・『大学ピアノ教本』 <p>【事前学習】「とんぼのめがね」と教本No. 60を練習する。(30分) 【事後学習】「とんぼのめがね」と教本No. 60をスムーズに弾けるよう復習し、歌遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第13回 歌遊びと子ども讃美歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども讃美歌「だれがつくったの」 ・『大学ピアノ教本』 <p>【事前学習】「だれがつくったの」と教本No. 63を練習する。(30分) 【事後学習】「だれがつくったの」と教本No. 63をスムーズに弾けるよう復習し、歌遊びを考案し試す。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第14回 8分の6拍子の幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児曲「思い出のアルバム」 ・任意の曲 <p>【事前学習】「思い出のアルバム」を練習する。(30分) 【事後学習】「思い出のアルバム」をスムーズに弾けるよう復習し、任意の曲にも取り組む。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第15回 マーチ、幼児曲、子ども讃美歌、大学ピアノ教本、任意の曲のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意の曲、試験曲 ・これまでの学習のまとめ <p>【事前学習】できる限り多く、任意の曲を練習する。(30分) 【事後学習】任意の曲をスムーズに弾けるよう復習し、試験曲も練習する。(30分) ※遠隔授業の場合: 同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 第8回以降の授業において、周りと協力し取り組む。 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	大学音楽教育研究グループ編著 2012年 『教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』 教育芸術社 鈴木恵津子 富田英也 監修・編著 2015年 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社 必要に応じて適宜コピー資料を配付する
参考書	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 必要に応じて適宜コピー資料を配付する
評価方法	①演習30% (必修課題曲の修了) ②定期試験20% (実技テスト) ③小テスト・授業内レポート20% (楽典の簡単な筆記テストやレポート) ④受講者の発表10% ⑤受講態度20% ※遠隔授業の場合、定期試験をMicrosoft Teamsで行う可能性あり。

評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更する可能性があるため、ルーブリックについても同様。詳細は講義内で説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【<input type="checkbox"/>】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【<input type="checkbox"/>】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【<input type="checkbox"/>】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【<input type="checkbox"/>】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【<input type="checkbox"/>】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>毎時間レッスンカードに自己の受講状況や進度を記録し提出する。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。 日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。 ※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で掲示する説明や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する際は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。 古謝：授業終了後に質問を受け付けます。 ※遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題については、採点后返却する。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
糸洲 のぶ子・古謝 麻耶子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EET3231202		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 「音楽Ⅰ」での学習成果を踏まえ、幼児教育現場や保育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：子どもの音楽的感性を育てるために、楽典などの知識を深め、様々な拍子や調を理解して譜読みができる。 技能の観点：音楽の知識や技術を習得し、幼児教育現場や保育現場で役立つ幼児曲などの、弾き歌いの技能を身につける。 態度の観点：意欲的に授業と自主練習に取り組み、クラスメイトとも協力し必修課題曲を修了することができる。</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、保育における音楽教材等の活用及び作成と、保育の音楽的環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。大学ピアノ教本の学習は、読譜力やピアノ奏法の技術が更に高められるようにする。幼児曲、マーチの学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、幼児教育現場や保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く習得できるようにする。また、計画的に自主練習を行い、クラスメイトとも協力し必修課題曲の修了を目指す。</p> <p>授業形態は、習熟度に応じ個別指導を中心に行う（予習型）。</p> <p>幼稚園等の学校現場や音楽教室において実務経験のある担当教員が、その経験を活かし、教育現場における音楽の基礎的技術を実践的に指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明 ・「音楽Ⅰ」の復習 【事前学習】「音楽Ⅰ」で学習した曲を練習する。(30分) 【事後学習】講義概要説明を受け、「音楽Ⅱ」の課題曲に取り組む。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第2回 8分の6拍子の復習 ・個別レッスンを中心に行い、習熟度によって進度が異なる。 ・『大学ピアノ教本』No. 70, 71 【事前学習】教本No. 70, 71を練習する。(30分) 【事後学習】教本No. 70, 71をスムーズに弾けるよう復習し、8分の6拍子の曲も練習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第3回 歌遊び、幼児曲①ー「おはよう」 ・弾き歌いについて 【事前学習】「おはよう」を練習する。(30分) 【事後学習】「おはよう」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習し、歌遊びを覚える。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第4回 リズム遊び、マーチ①ー「おお牧場はみどり」 ・『大学ピアノ教本』No. 79 【事前学習】「おお牧場はみどり」と教本No. 79を練習する。(30分) 【事後学習】「おお牧場はみどり」と教本No. 79をスムーズに弾けるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第5回 幼児曲②ー「たんじょう日」 ・装飾音について 【事前学習】「たんじょう日」を練習する。(30分) 【事後学習】「たんじょう日」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第6回 幼児曲③ー「たなばたさま」 ・アルペジオについて 【事前学習】「たなばたさま」を練習する。(30分) 【事後学習】「たなばたさま」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第7回 歌遊び、幼児曲④ー「おかえりのうた」 ・ペダルの使い方 【事前学習】「おかえりのうた」を練習する。(30分) 【事後学習】「おかえりのうた」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習し、歌遊びを覚える。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第8回 転調について ・『大学ピアノ教本』No. 74, 93 【事前学習】教本No. 74, 93を練習する。(30分) 【事後学習】教本No. 74, 93をスムーズに弾けるよう復習し、転調についても理解を深める。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p>

第9回	リズム遊び、幼児曲⑤ー「はをみがきましょう」 ・1オクターブの奏法について 【事前学習】「はをみがきましょう」を練習する。(30分) 【事後学習】「はをみがきましょう」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第10回	マーチ②ー「ブルーセスマーチ」 ・ニ長調の音階 【事前学習】「ブルーセスマーチ」を練習する。(30分) 【事後学習】「ブルーセスマーチ」をスムーズに弾けるよう復習し、ニ長調についても理解を深める。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第11回	音遊び、子ども讃美歌 ・子ども讃美歌について 【事前学習】「かみさまにかんしゃ」を練習する。(30分) 【事後学習】「かみさまにかんしゃ」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第12回	幼児曲⑥ー「かたつむり」 ・任意の曲(習熟度による進度) 【事前学習】「かたつむり」と、任意の曲を練習する。(30分) 【事後学習】「かたつむり」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習し、他の幼児曲にも取り組む。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第13回	沖縄の曲 ・任意の曲(習熟度による進度) 【事前学習】「じんじん」と、任意の曲を練習する。(30分) 【事後学習】「じんじん」をスムーズに弾けるよう復習し、他の沖縄の曲にも取り組む。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第14回	幼児曲、マーチ、子ども讃美歌、大学ピアノ教本、沖縄の曲、任意の曲のまとめ ・これまで学習した曲のまとめ(習熟度による進度) 【事前学習】必修曲の修了を目指し、既に修了した場合、より多くの曲を練習する。(30分) 【事後学習】これまでの学習を振り返ると共に、新たな任意の曲に取り組む。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第15回	幼児曲、マーチ、子ども讃美歌、大学ピアノ教本、沖縄の曲、任意の曲及び全体のまとめ ・任意の曲、試験曲 ・これまでの学習全体のまとめ 【事前学習】できる限り多く、任意の曲を練習する。(30分) 【事後学習】任意の曲をスムーズに弾けるよう復習し、試験曲も練習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。
第16回	定期試験
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 毎回の授業において、周りと協力し取り組む。 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	大学音楽教育研究グループ編著 2012年 『教職課程のための 大学ピアノ教本 パイエルとツェルニーによる展開』 教育芸術社 鈴木恵津子 富田英也 監修・編著 2015年 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社 必要に応じて適宜コピー資料を配付する
参考書	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 必要に応じて適宜コピー資料を配付する
評価方法	①演習30% (必修課題曲の修了) ②定期試験20% (実技テスト) ③小テスト・授業内レポート20% (楽典の簡単な筆記テストやレポート) ④受講者の発表10% ⑤受講態度20% ※遠隔授業の場合、定期試験をMicrosoft Teamsで行う可能性あり。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 <input type="checkbox"/> 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 <input type="checkbox"/> 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【 <input type="checkbox"/> 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 <input type="checkbox"/> 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。

	【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	<p>毎時間レッスンカードに自己の受講状況や進度を記録し提出する。</p> <p>授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。</p> <p>日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。</p> <p>※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で掲示する説明や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する際は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるように準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。</p> <p>古謝：授業終了後に質問を受け付けます。</p> <p>※遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。</p>
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
佐久本 邦華・荻谷 洋介			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3132121		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 幼児の表現の姿やその発達、およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現や環境の構成などについて学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。</p> <p>【到達目標】 ①知識・理解：幼児の表現の姿や発達を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な、造形表現活動に関する知識を習得する。 ②技能：造形表現の五感を意識した体験（感じる、みる、きく、楽しむ）から表現活動へとつなげることを通して、幼児の表現を支える保育者としての豊かな感性を身につける。また、表現活動に係る材料や道具の活用法や環境構成について考え、具体的展開のための技術を習得する。 ③態度：積極的に活動に参加し、表現する楽しさや協働する楽しさを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現へとつなげ展開することができる。</p>
授業の概要	<p>自然との対話、素材との対話、他者との対話を通して行われる表現活動について考え、保育におけるアートの役割を確認する。体験によって心が動き、身体が動き、表現活動へとつながることを実践を通して学ぶ。また、色や形だけでなく、身体や音、言葉を交えた総合的な表現について考える。</p> <p>保育者としての視点を常に考えながら積極的に演習に臨み、子どもの造形表現における発達段階を踏まえ、造形における基本的な素材や教材・用具の特性を理解し、それらを通じた表現技法について学ぶ。終盤には保育・教育の場で活かせるような造形表現の活動案の提案・模擬授業・振り返りを行う。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明ー保育におけるアートの役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 1. 図画工作 I の講義概要および評価指標について確認する。 2. なぜ子どもたちに造形表現活動が大切なのか、子どもたちの姿や、身近な環境・生活から考えてみる。 3. たたき染めを通して、身近な環境の中にある色と形に気づく。 【事前学習】講義シラバスを読んでおく。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第2回 絵の具で遊ぼうーモダンテクニック ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 モダンテクニックと呼ばれる様々な技法がある。保育にも簡単に取り入れられる、偶然性を生かした絵画技法について学ぶ。 【事前学習】テキスト第3章を読んでおく。(30分) 【事後学習】実践を通して得た気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第3回 絵の具で遊ぼうーモダンテクニックの展開 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 偶然性を生かした絵画技法で表現活動を楽しんだ後に、それらを何かに見立て、さらなる製作活動へと展開することを学ぶ。 【事前学習】テキスト第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】実践を通して得た気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第4回 仕掛けカード製作ー変身カード ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 絵の一部を変身させて違った形を考え、身近な材料や道具でカードを製作する。製作を通して造形的な見方・考え方を養い、発想力を伸ばす。 【事前学習】テキスト第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第5回 おもちゃの研究ー身の回りにあるものでおもちゃを作る ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 身の回りにある物（木・缶・チラシ・石など）で工夫しておもちゃを作り遊んでみる。時間をかけて自分たちでおもちゃを作ることは、子どもの想像力、発想力、巧緻性、集中力など様々な力を育む。出来上がったおもちゃをみんなで遊び、手作りおもちゃの魅力や工夫した点を伝えあう。 【事前学習】テキスト第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第6回 新聞紙を用いたさまざまな遊びー年齢に応じた活動について考える ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 0, 1, 2歳児用の静かな遊びから、3歳児以上のダイナミックな遊び、また見立てやごっこを加えた変身ショーなど、新聞紙で展開できる様々な表現活動について学ぶ。 【事前学習】テキスト第3章・第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第7回 描画材としての鉛筆ー鉛筆と消しゴムで表現する ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 描画材としての鉛筆について復習し、鉛筆の特徴を生かした色調の美しさや表現力に関心を持つ。はじめにカッターを使って鉛筆の削り方を確認し、道具の扱いに慣れる。また消しゴムとあわせて用いることで様々な表現を楽しむ。 【事前学習】テキスト第3章・第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第8回 色について学ぶー色の持つ性質とは何か ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 色には様々な感情やイメージを呼び起こす性質がある。色だけでなく、構図の取り方や画面構成でも与える印象は大きく変わる。このことをふまえ、実際に感情やイメージを画面に表してみ</p>

第9回	<p>る。</p> <p>【事前学習】テキスト第2章と第5章の色に関する部分について読んでおく。(30分)</p> <p>【事後学習】授業を通して得た気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>粘土の特性を学ぶー可塑性が引き出す表現とは ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>年度での子どもの行為や作り出す形は、指や手、心身の発達とも関連しており、それに伴い変化が見られる。また、粘土で遊ぶうちにイメージが広がってきて、様々な表現画生まれる。作品作りを急ぐのではなく、粘土と仲良くなる時間について実践を通し学ぶ。</p> <p>【事前学習】テキスト第3章を読んでおく。(30分)</p> <p>【事後学習】授業を通して得た気づきと学びをまとめる。(30分)</p>
第10回	<p>いろいろなもので描くー筆以外の物で描く ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>筆だけではなく、さまざまな用具で絵を描くことができる。また、手や足でも描くことができる。筆以外の物で絵を描き、表現を楽しむ。</p> <p>【事前学習】テキスト第3章「うつつ」を読んでおく。(30分)</p> <p>【事後学習】実践を通しての気づきと学びをまとめる。(30分)</p>
第11回	<p>いろいろなものに描くー紙以外の物に描く ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>画用紙だけではなく、新聞紙やロール紙、地面など、様々な場所に絵を描くことができる。画用紙以外の物へ描画した時の感じ方や表出の違いを確かめ、表現を楽しむ。</p> <p>【事前学習】画用紙以外の支持体について、どのようなものが挙げられるか考えておく。(30分)</p> <p>【事後学習】実践を通しての気づきと学びをまとめる。(30分)</p>
第12回	<p>動きと色と音による表現活動 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>身体活動と連動した表現活動について考え、体験することを通して、総合的な表現活動について考える。</p> <p>【事前学習】身体活動と連動した表現活動にはどのようなものがあるのか調べておく。(30分)</p> <p>【事後学習】実践を通して得た気づきと学びをまとめる。(30分)</p>
第13回	<p>造形活動ー指導案立案 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>造形活動をするにあたり、対象年齢を何歳児にするのか、何名にするのか、何月の活動にするのかを決める。それにあつた活動内容を提案する。クラスで活動内容をもとに指導案を立案する。</p> <p>【事前学習】対象年齢に応じた造形活動にはどのようなものがあるのか調べておく。(30分)</p> <p>【事後学習】授業内容をふまえ、指導案をまとめる。(30分)</p>
第14回	<p>造形活動ー模擬授業 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>実際に立てた指導案に基づき、保育士役と子ども役にわかれて模擬授業を行う。時間が来たら保育士役と子ども役を入れ替える。どのような声掛けや導き方ができるのか、活動時にあると便利な道具などについても考えてみる。</p> <p>【事前学習】指導案をシュミレーションして、足りない材料などがいないか確認しておく。(30分)</p> <p>【事後学習】模擬授業を通して出てきた修正点を確認しておく。(30分)</p>
第15回	<p>模擬授業の振り返りとまとめー表現と素材についてー ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>模擬授業を映像や画像を通して振り返り、気づいたことなどを発表し、意見交換を行う。安全面などで気を付けることがあったか、あれば便利だと感じた道具や、面白い展開ができたことなどについて意見を述べる。また、子どもへの声掛けは適切だったかについて発表する。</p> <p>【事前学習】安全面や声掛けについて気づいたことをまとめておく。(30分)</p> <p>【事後学習】振り返りをふまえ指導案の修正を行い提出する。(30分)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>開成出版 2019年 『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>新幼児と保育編集部・磯部錦司協力 2018年 『子どもとアート 生活から生まれる新しい造形活動』 小学館</p> <p>福田泰雅・磯部錦司著 2015年 『保育のなかのアートープロジェクトアプローチの実践からー』 小学館</p>
評価方法	<p>演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で制作した作品・発表 50%</p> <p>指導案・模擬授業 20%</p> <p>小レポート 20%</p> <p>授業態度 10%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p>

	<p>【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します
オフィスアワー	佐久本：毎週月曜日3限目 佐久本研究室（北研2-1） ※遠隔授業期間においては、メール、Microsoft Teams等を利用し相談を行う（メールアドレス：sakumoto.k@ocjc.ac.jp） 荻谷：講義終了後に質問を受け付けます。 ※遠隔授業期間においては、メール、Microsoft Teams等を利用し相談を行う（アドレス：kariya2074@gmail.com）
課題に対するフィードバック方法	演習に関しては、課題完成後の鑑賞の時間を用い、フィードバックを行う。 指導案や小レポートなどの提出物に関しては、採点后学生のメールボックスへ返却する。

講義科目名称： 図画工作Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Art and Craft Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
佐久本 邦華・荻谷 洋介			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3232222		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 主にグループでの共同製作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みたて」や「ごっこ」のイマジナリーな側面への理解を深める。また、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開について考える。</p> <p>【到達目標】 ①知識・理解：「みたて」遊びや「ごっこ」遊びなどのコミュニケーションを通して生まれる表現活動が、製作に与える影響について理解する。 ②技能：「みたて」遊びや「ごっこ」あそびを通して、身体表現、音楽表現、言語表現なども重なった総合的な「表現」に展開するために必要な、造形表現からのアプローチ方法や技術を習得することができる。 ③態度：協働活動を通し、他者の表現を受け止め共感することで、より豊かな表現へとつなげていく姿勢を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」や「ごっこ遊び」を活発にするような共同製作に取り組む。常に保育者としての視点を持ちながら演習に臨み、共同製作時の声掛けや環境設定における留意点についても考える。個人で作ったものを集合させて大きな作品を製作する、はじめからグループで大きな作品を製作するなど、様々なグループワークに取り組んでみる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明－①図画工作Ⅱの目的と内容について②コミュニケーションを通じた造形活動 (1)－※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 ①図画工作Ⅱの内容と目的、ループリックについて説明を行う。 ②造形表現活動を伝え合うことの大切さについて、活動「つながる地図」を参考に考える。その後各グループで作る地図のテーマを決める。 【事前学習】講義シラバスを読んでおく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第2回 コミュニケーションを通じた造形活動(2)－グループの世界をつくる ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 4～6人規模のグループを作成し、それぞれの世界を作り上げる。コミュニケーションを通し、一つの世界観を作り上げることの楽しさを体験する。素材研究も兼ね、5種類の素材と3種類の接着剤を用いる。絵の具やペン、クレヨンなどと組み合わせ際に適している素材や接着剤について考察・検証を行う。 【事前学習】地図作成に必要な廃材や段ボールなどの素材を集めておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第3回 コミュニケーションを通じた造形活動(3)－広がりのある製作にするには ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 隣のグループとコミュニケーションを取りながら、地図をつなげ世界を広げていく。最終的には一つの世界となる。完成後、各グループの世界についてそれぞれ発表してもらい、鑑賞する。世界観を共有し作り上げた感想等を述べてもらい、振り返りを行う。 【事前学習】引き続き、地図作成に必要な廃材や段ボールなどの素材を集めておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第4回 仕掛けのあるクリスマスカード製作(1)：紙の基本的な加工方法について学ぶ ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 切る、切り起こす、曲げる、折る、編むなど、紙の多彩な加工方法について学び、仕掛けのあるカードを製作する。仕掛けのあるカードが見る人をワクワクさせることを再認識し、子どもに送ることを前提にカードを製作する。また、クリスマスの意味について学び、ともにクリスマスを祝うためにクリスマスカードを製作する。 【事前学習】テキスト第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第5回 仕掛けのあるクリスマスカード製作(2)：グリーティングの意味を考えて製作する ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 引き続き、仕掛けのあるクリスマスカードを製作する。製作後は鑑賞会を持ち、お互いのカードの面白い点、素晴らしい点について意見交換を行う。カードはクリスマスまでの期間展示する。 【事前学習】カード製作に必要な材料を集めておく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第6回 「ごっこあそび」を通じた造形表現(1)：教材の意味と魅力的な導入について ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 4～5歳児からさかんになるごっこ遊びの事例を紹介し、何者かになりきることへの楽しみについて確認する。ごっこ遊びを生かした造形遊びについて例を提示し、ごっこ遊びに対する意見を聞いてみる。 初回は様々な色と形の土台と、「名前」「性格」「特徴」のくじを作成する。 【事前学習】お面製作に使えるような廃材を集めておく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p> <p>第7回 「ごっこあそび」を通じた造形表現(2)：素材研究を行う ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 「名前」「性格」「特徴」を書いたくじを一つずつ引いてもらい、自分のキャラクターを設定する。想定外の奇抜な名前や特徴などの、様々な要素の組み合わせが作り手のイメージを刺激する</p>

第8回	<p>ことを体験する。そして自分で引いたくじをもとに土台を選択し、キャラクターの性格や特徴が伝わるようなお面を製作する 【事前学習】引き続きお面製作に使えるような廃材を集めておく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと感想をまとめる。(30分) 「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：製作と表現 ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用</p>
第9回	<p>キャラクターの性格や特徴が伝わるようなお面を製作する。素材研究も兼ね、5種類の素材と、3種類の接着剤を使用し、素材に適する接着剤について検証を行う。 【事前学習】引き続きお面製作に使えるような廃材を集めておく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと感想をまとめる。(30分) 「ごっこあそび」を通した造形表現-ICT機器の活用による展開(1)：各自自己紹介動画を制作する。 ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用</p>
第10回	<p>4~5名でグループ分けを行い、各自のデバイスを用い自己紹介動画を撮影する。キャラクターの性格や特徴が伝わるよう工夫する。その後、無料アプリを用いて動画の編集を行う。効果音、BGM、テロップを効果的に活用する。 【事前学習】字幕や効果音の付け方について練習しておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと学び、そして感想をまとめる。(30分) 「ごっこあそび」を通した造形表現-ICT機器の活用による展開(2)：グループ動画の編集と鑑賞 ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用</p>
第11回	<p>引き続き編集作業を行い、iPadを用いて、各キャラクターの自己紹介を一本にまとめる。編集の際にはグループでテーマを決めて、まとまりのある動画を編集する。最後の30分で鑑賞と振り返りを行う。他のグループの動画について感想を述べ合う。また、キャラクターになりきったことで自分の中にどのような変化が起こったか話してもらい、学生間で意見を共有する。 【事前学習】動画を撮影していない学生は撮影する。グループで協力して準備しておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと学び、そして感想をまとめる。(30分)</p>
第12回	<p>版による造形表現(1)-素材の収集とその造形性：教材の導入の工夫 ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 反復模様を生成する楽しさや面白さなど、版についての基礎について学ぶ。また廃材等を用い、普段目にしている形と、版として現れる形との違いに対する新鮮な驚きを体験する。こういった素材が面白い形を生み出すのか、材料研究を行う。 【事前学習】なるべく多くの素材の廃材を収集しておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p>
第13回	<p>版による造形表現(2)-素材の収集とその造形性：耐久性のある素材と接着剤について ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 こういった素材が面白い形を生み出すのかイメージしながら製作をすすめる。また、素材研究も兼ね、5種類の素材と、3種類の接着剤を使用し、版画素材に適する素材と接着剤について考察する。 【事前学習】なるべく多くの素材の廃材を収集しておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p>
第14回	<p>版による造形表現(3)-版の完成と刷り上げ ※遠隔授業の場合：Microsoft Teamsを使用 製作した版を、一枚の布に刷り上げる。絵具が乾かないうちに一枚に効率よく摺り上げるには、見通しをもった準備や声掛けとチームワークが必要となる。刷り上げる際の手順を話し合い、実践し、最後に鑑賞する。また、版に適した素材、不向きな素材や接着剤が何であったのかまとめる。 【事前学習】前回の授業をふまえ、引き続き素材となる廃材を収集しておく。(30分) 【事後学習】実践を通しての気づきと感想をまとめる。(30分)</p>
第15回	<p>ゆらゆらキャッチャーで空間を飾ろう-光と色を楽しむ 空間を飾ることに関心をもち、表したいテーマやイメージを持ちながら表現する。素材に触れて光を通し表現方法を工夫する。吊るして飾り、透過した色彩が作り出す雰囲気、部屋や空間が豊かに変わることを感じるとともに、それぞれの工夫や良さに気づく。 【事前学習】テキスト第5章を読んでおく。(30分) 【事後学習】講義を通しての気づきと学び、感想をまとめる。(30分)</p>
第16回	<p>子どもたちの創造性を刺激する環境について考える ※遠隔授業の場合：Google ClassroomとZOOMを併用 楽しかったり、嬉しかったり、驚いたりといった子どもの心に湧き上がる感情があって、初めて創作活動へと繋がるということを再確認する。またそのような体験は保育士や子どもどうしのかかわり、また自然環境とのかかわりから生まれるものであり、創作活動にとって体験を生み出す環境がいかに大切なのかについて理解を深める。 【事前学習】テキスト第8章を読んでおく。(30分) 【事後学習】図画工作Ⅱの講義を通しての気づきと学び、感想をまとめる。(30分)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布</p>
参考書	<p>福田泰雅・磯部錦司著 2015年 『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践から』 小学館 小串里子著 『みんなのアートワークショップ~子どもの造形からアートへ~』 2011年 武蔵野美術大学出版 北沢昌代・島山智宏・中村光絵著 『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』 2019年 開成出版 平田智久・小林紀子・砂上史子編 『保育内容「表現」』 2015年 ミネルヴァ書房</p> <p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>

評価方法	<p>演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。 演習で制作した作品・発表 (60%※遠隔授業の場合制作した作品の写真を提出、それをもとに発表60%) ファイル・小レポート 30% 授業態度 10%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、ルーブリックについて変更を行う場合がある。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>演習ですので、各自で準備物がが必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。 ※遠隔授業の場合、Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。遠隔で授業を実施する場合は授業開始時間にはPCで参加できるように準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>佐久本：毎週○曜日○限目 佐久本研究室（北研2-1） ※遠隔授業期間においては、メール、Microsoft Teams等を利用し相談を行う（アドレス：sakumoto.k@ocjc.ac.jp） 荻谷：講義終了後に質問を受け付けます。※遠隔授業期間においては、メールを利用し相談を行う（アドレス：kariya2074@gmail.com）</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題が終了するごとに、制作したグループワークの鑑賞を行う。その後、各学生に振り返りのレポートを提出してもらい、採点後に講義内、もしくはメールボックスにて返却する。 学期末には、講義内で配布した資料をまとめたファイルを提出してもらい、評価の一部とする。 ※遠隔授業の場合はポートフォリオの提出はなく、Teams等で提出されたもので評価を行い、またフィードバックを行う。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
Podolyak Nataliya			
単独授業形態：演習	ナンバリング：EET3132111		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ： 幼児期の運動遊びの重要性の理解を深めるとともに、子どもが楽しく取り組める運動遊びの展開ができる実践力を養う。</p> <p>【達成目標】 知識・理解の観点： 1. 幼児期の精神的、身体的発達段階を考慮し段階に対応可能な運動量、種目などについて理解する。 2. マット、平均台、ボール、鉄棒、リズムダンスなど、保育園や幼稚園で行われる運動あそびを自ら体験し、指導者としての視点や留意点を説明できる。</p> <p>技能の観点： 1. 運動遊びを実践する際の環境設定、声かけの仕方等、具体的な展開方法を学び、模擬保育に活かすことができる。 2. 幼児期の心身の発達段階に即した教材を工夫するとともに、運動遊びの指導計画を立案できる。</p> <p>態度の観点： 1. 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。</p>
授業の概要	<p>乳幼児期における運動発達に関する基礎的な知識を理解するとともに運動遊びの実際に触れながら子どもの身体的能力を高め、各種の運動技能をより多く獲得させる方法について学ぶ。さまざまな運動遊びを体験することで、保育者として配慮すべき環境設定や安全面についても考える。また、乳幼児期に体験させたい各種運動遊びについて、指導計画を立案できるようになる。その特性と保育の実践的展開に必要な知識と指導技術を獲得する。さらに、自らの評価とまわりからのフィードバックを基に保育実践を振り返ることを通して、自身の取り組みを改善続けし続ける視点を持つことができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義内容説明、幼児体育の意義と役割 *遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 授業の内容、評価方法等についてオリエンテーションを行う。幼児期運動指針の内容を理解し、幼児期の運動特性について学ぶ。「幼児の運動遊びの実践」DVDを視聴する。</p> <p>【事前学習】 幼児の運動遊びの種類について調べておく。幼児の運動遊びを展開する際の、指導方法のポイントについて調べておく。(30分) 【事後学習】 運動遊びが子どもに与える効果について調べる。(30分)</p> <p>第2回 保育実践に必要な知識と技能の習得表(リズム体操・各ステップ)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 リズム体操・表現あそび・ステップなどの運動遊びについて実際に体験する。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事前学習】 保育現場ではどのようなリズム体操は取り入れられているかについて調べる。(30分) 【事後学習】 講義中のリズム体操やリズムダンスで用いられたステップを復習する。また、発表された内容の他にどのようなフォークダンスがあるか調べる。(30分)</p> <p>第3回 運動遊びの実際と保育者の援助(創作ダンス・フォークダンス)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 フォークダンスのステップの種類について紹介する。リズム体操・フォークダンス・ステップなどの運動遊びについて実際に体験する。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事後学習】 フォークダンスの歴史や、国内の幼児教育に取り入れられた経緯について調べる。(30分) 【事後学習】 講義中のダンスで用いられたステップを復習しておく。また、発表された内容の他にどのようなフォークダンスがあるか調べる。(30分)</p> <p>第4回 用具を使わない集団運動遊び(鬼ごっこ、走りっこ遊び)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 鬼ごっこや走りっこ遊びの種類について紹介する。鬼ごっこや走りっこ遊びなどの運動遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事前学習】 各年齢の子どもたちにあった鬼ごっこ・ジャンケン遊びの種類・展開方法について学習しておく。(30分) 【事後学習】 講義中に学んだ運動遊びの他のどのような種類の鬼ごっこ遊びやジャンケン遊びがあるか調べる。(30分)</p> <p>第5回 用具を使わない運動遊び(ジャンケン遊び、力比べ遊び)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 ジャンケン遊び、力比べ遊びの種類について紹介する。ジャンケン遊び、力比べ遊びなどの運動遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事前学習】 各年齢の子どもたちにあったジャンケン遊び、力比べ遊びの種類・展開方法について</p>

第6回	<p>学習しておく。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びについて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。(30分)</p> <p>ルールのある運動遊び*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 かけっこリレーあそび・ルールのある遊びの種類について紹介する。かけっこリレーあそび・ルールのある遊びなどの運動遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p>
第7回	<p>【事前学習】各年齢の子どもたちにあったかけっこリレー遊び、ルールのある遊びの種類・展開方法について学習しておく。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びについて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、紹介された運動遊びの他のどのような種類のかけっこリレー遊びがあるか調べる。(30分)</p> <p>身近な素材を利用した身体活動(新聞、風船、ビニール袋など)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 新聞、ビニール袋、風船等の身近にある素材を使った運動遊び種類について紹介する。身近なものを使用した遊びなどの運動遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p>
第8回	<p>【事前学習】身近な素材で、幼児の運動遊びで使うことのできる遊具を一つ作成しておく。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びについて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、紹介された運動遊びの他のどのような種類の身近なものを使用して遊びがあるか調べる。(30分)</p> <p>用具を使った集団運動遊び(ボール遊び)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 一人で遊ぶ、二人で遊ぶ、大人数で遊ぶボール遊び種類について紹介する。ボール遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p>
第9回	<p>【事前学習】各年齢の子どもたちにあったボール遊びを使用する遊びの種類・展開方法について学習しておく。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びについて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、紹介された運動遊びの他のどのような種類のボール遊びがあるか調べる。(30分)</p> <p>用具を使った運動遊び(縄遊び)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 短い縄と大縄を使用した遊び種類について紹介する。縄跳び遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p>
第10回	<p>【事前学習】縄跳びにつなげるために、縄を使ってどのような遊びが展開されているか調べる。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びについて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、紹介された運動遊びの他のどのような種類の縄跳び遊びがあるか調べる。(30分)</p> <p>遊具を使った運動遊び①(マットあそび、平均台)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 マット、平均台等を使った遊びの体験を行う。それぞれの遊具を使った技についても紹介を行う。また、それぞれの遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について知る。</p>
第11回	<p>【事前学習】器械体操につなげるために、大型遊具を使ってどのような遊びが展開されているか調べる(30分) 【事後学習】大型遊具の特性を踏まえて、他の遊具と組み合わせるとどのような遊びが展開できるか考え(30分)</p> <p>遊具を使った運動遊び②(とび箱あそび)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 跳び箱等を使った遊びの体験を行う。それぞれの遊具を使った技についても紹介を行う。また、それぞれの遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について知る。</p>
第12回	<p>【事前学習】器械体操につなげるために、大型遊具を使ってどのような遊びが展開されているか調べる(30分) 【事後学習】大型遊具の特性を踏まえて、他の遊具と組み合わせるとどのような遊びが展開できるか考え(30分)</p> <p>遊具を使った運動遊び③(鉄棒あそび)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験を行う。それぞれの遊具を使った技についても紹介を行う。また、それぞれの遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について知る。</p>
第13回	<p>【事前学習】器械体操につなげるために、大型遊具を使ってどのような遊びが展開されているか調べる(30分) 【事後学習】大型遊具の特性を踏まえて、他の遊具と組み合わせるとどのような遊びが展開できるか考え(30分)</p> <p>模擬保育の実践と評価①(リズム体操)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 具体的な保育場面を想定した指導案(リズム体操)の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について、運動遊びの体験を通して学ぶ。教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。</p>
第14回	<p>【事前学習】自分の担当する運動遊びについて調べ、どのような遊びを発表するか考える。指導案を準備する。(30分) 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのようななわ遊びがあるか調べてみる。(30分)</p> <p>模擬保育の実践と評価②(創作ダンス)*遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。 具体的な保育場面を想定した指導案(創作ダンス)の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について、運動遊びの体験を通して学ぶ。教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。</p>

	<p>【事前学習】自分の担当する運動遊びについて調べ、どのような遊びを発表するか考える。指導案を準備する。(30分)</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのようななわ遊びがあるか調べてみる。(30分)</p> <p>第15回 模擬保育の実践と評価③ (身近な物を使用した運動遊び) *遠隔の際にはMicrosoft Teamsを使用する。</p> <p>具体的な保育場面を想定した指導案(身近な物を使用した運動遊び)の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について、運動遊びの体験を通して学ぶ。教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】自分の担当する運動遊びについて調べ、どのような遊びを発表するか考える。指導案を準備する。(30分)</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのようななわ遊びがあるか調べてみる。(30分)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>特に指定しない 随時資料を配布。</p> <p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p>
参考書	<p>幼児期運動指針策定委員会 2013年『幼児期運動指針ガイドブック』文部科学省</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>
評価方法	<p>授業に取り組む態度(50%)、課題発表(30%)、振り返りコメントや指導案などの提出状況(20%)などを総合して行う。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) - :出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。</p> <p>服装は、運動の出来る服装で授業にのぞむこと。</p>
オフィスアワー	<p>毎週 月曜日 3限目 Nataliya研究室(西研3-10)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>・模擬保育の実践については、評価して講義内でそのフィードバックを行う。</p> <p>・指導案を評価して返却する。</p>

講義科目名称： 幼児体育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Gymnastics for Children Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
Podolyak Nataliya			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3232212		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ： 幼児体育Ⅰで学習したことを基に、多様な運動遊びの援助の方法について系統的・体験的に学習し、保育実践に生かせるよう検討していく。</p> <p>【達成目標】 知識・理解の観点： 1. 様々な運動遊びを通して、子どもの遊びに対する欲求を理解し、子どもとために体を動かして楽しめる保育者としての視点を持つことができる。 2. 幼児の発達段階に応じた、様々な運動遊びを創作し、実践を通して、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>技能の観点： 1. 各年齢の発達段階に応じ、適切な運動遊びの環境づくりを構想し、指導案を作成する。 2. 保育者としての表現力を磨き、身体表現による作品づくりを創作することができる。</p> <p>態度の観点： 1. グループの活動において、仲間と協力・協働してそれぞれの活動に取り組む事ができるようになる。 2. 優れた専門知識や技能を修得し、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。</p>
授業の概要	<p>幼児教育機関の指導者（保育者）は幼児の発育発達に即した運動遊びの正しい理解と指導能力を備えていなければならない。本授業では、グループ学習を中心に行い、幼児期の運動遊びの重要性の理解を深めるとともに、子どもが楽しく取り組める運動遊び教材を工夫したり、その教材を用いた運動遊びの展開ができる実践力を養うことを目的とする。さまざまな集団的な表現遊びや運動遊びの実践や創作術を学び、模擬保育を行う。また、日常の運動遊びにおける実践指導と安全に遊びを進めていける遊びの指導法を基礎とし、運動会の協議や演技の取り組み立手を企画構成する力が養えるよう実技授業を構成する。さらに、自らの評価とまわりからのフィードバックを基に保育実践を振り返ることを通して、自身の取り組みを改善続けし続ける視点を持つことができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義内容説明、グループ編成、*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 授業の内容、授業計画、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。アイスブレイクを行う。</p> <p>【事前学習】 幼児の運動遊びの種類について調べておく。(30分) 【事後学習】 自分の担当したい運動遊びについて調べる。(30分)</p> <p>第2回 大型遊具の指導法*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 大型遊具の遊びとして、マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の課題の紹介と練習を行う。用具の安全な使用の仕方、準備・片付けについても学習する。その他、フープ遊びの紹介をする。</p> <p>【事前学習】 基礎課題研究として行われている運動が、現場でどのように実践されているか文献等で調べる。(30分) 【事後学習】 技術指導のポイントについて考えをまとめる。また、サーキット遊びの組み立てについて考える。(30分)</p> <p>第3回 大型遊具の遊びとサーキット遊びの組み立て：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 基礎課題研究のマット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の試験を行い、それぞれの活動についてその評価の視点と方法について学ぶ。また、大型遊具を使用したサーキット遊びの指導方法を理解する。</p> <p>【事前学習】 基礎課題研究の種目の練習を行う。(30分) 【事後学習】 幼児の発達を踏まえたうえで、基礎課題研究で行った種目の指導法と指導者の援助の重要なポイントをまとめる。(30分)</p> <p>第4回 大型遊具を使用したサーキット遊びの作成実践*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 基礎課題研究のマット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の試験を行い、それぞれの活動についてその評価の視点と方法について学ぶ。また、グループで花試合、大型遊具を使用したサーキット遊びを作成する。</p> <p>【事前学習】 基礎課題研究の種目の練習を行う。(30分) 【事後学習】 幼児の発達を踏まえたうえで、基礎課題研究で行った種目の指導法と指導者の援助の重要なポイントをまとめる。(30分)</p> <p>第5回 トランポリン遊びの指導法 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamに掲載 トランポリンでは、数種類の技を紹介し、挑戦してみる。トランポリンの基本的な跳び方と安全管理について学習する。</p> <p>【事前学習】 トランポリン遊びにどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】 講義中に紹介された遊び以外にどのようなトランポリン遊びがあるか調べる。(30分)</p>

第6回	<p>パラバルーン 遊び *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 現代、保育の現場では、大人気のパラバルーン遊びの各種類の技を紹介し、挑戦してみる。パラバルーンの基本的な遊び方を学習する。</p> <p>【事前学習】パラバルーンの遊びにどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】講義中に紹介された遊びや、体験した遊び以外にどのような遊びがあるか調べる。(30分)</p>
第7回	<p>「幼児の身体表現(0歳から6歳まで)」(ビデオ鑑賞)*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 「幼児の身体表現」のビデオを視聴し、子どもの自由な身体表現を引き出す方法や声かけの仕方について学ぶ。最後にその内容についてレポートを作成する。</p> <p>【事前学習】からだを使って表現する遊びについて調べてみる。(30分) 【事後学習】ビデオで紹介された表現遊びの展開の仕方、指導方法のポイントについて各自で整理しておく。また、他にもどのような遊び方があるか調べる。(30分)</p>
第8回	<p>身体表現で遊ぶ・絵本のストーリー遊び*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 「表現力」について理解し、保育者に必要な表現力について学ぶ。絵本等の物語の世界と運動を結びつけて行う運動遊びの体験を通して、子どもの表現力を引き出す方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】ストーリー運動遊びとは何か、またストーリー遊びの種類について調べておく。(30分) 【事後学習】好きな絵本を選んで、ストーリー遊びを考える。(30分)</p>
第9回	<p>組体操の実践と指導法*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 組体操の1人技、2人技や3人技などの、数種類技を紹介し、挑戦してみる。組体操の基本的な技と安全管理について学習する。グループでは1人技の組体操の演技を作成し、発表を行う。</p> <p>【事前学習】組体操のねらいと数種類技にどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】講義中に紹介された組体操の指導法と保育者の援助の重要なポイントについてまとめる。(30分)</p>
第10回	<p>小用具を使った創作ダンス(小用具を使う)*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 ボール、フープ、スカーフ、リボンなどの小用具を使った数種類技を紹介し、挑戦してみる。グループでは小用具を使った創作ダンスを作成し、発表を行う。</p> <p>【事前学習】小用具を使った数種類技にどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】講義中に紹介されたの小用具を使った創作ダンス指導法と保育者の援助の重要なポイントについてまとめる。(30分)</p>
第12回	<p>模擬保育の企画と準備*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 親子レクリエーション、散歩企画とミニ運動会の計画について、担当するグループについて事前に企画し、リハーサルする。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】担当している模擬保育計画の準備を行う。(30分) 【事後学習】担当している模擬保育発表の役割を決めて、最終的な確認を行う。(30分)</p>
第13回	<p>親子レクリエーションの企画と展開) *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 親子レクリエーションを担当するグループについて事前に企画し、授業当時にその展開を行う。園外での活動が親子の運動にとってどのような効果をもたらしているかについて学ぶ、安全教育の視点についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】保育現場における親子レクリエーションをどのように行っているのかについて調べる。(30分) 【事後学習】それぞれの発表の良さについて確認するとともに、子どもと一緒に創作する方法についても考える。(30分)</p>
第14回	<p>「歩け歩け」園外保育の企画と展開*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 お散歩を担当するグループについて事前に企画し、授業当時にその展開を行う。園外での活動が子どもの運動にとってどのような効果をもたらしているかについて学ぶ他、安全教育の視点についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】現代の幼児の活動量がどのようにになっているかを調べる。また、お散歩には運動以外にもどのような効果が期待できるのかについても事前学習しておく。(30分) 【事後学習】講義の中の体験から、お散歩の際の注意や企画の立て方について各自で整理しておく。(30分)</p>
第15回	<p>公園でミニ運動会の企画と展開 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoftTeamsに掲載 ミニ運動会を担当するグループは園外保育(公園)について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。公園にある遊具や自然を生かした運動遊びの展開方法について学ぶ他、環境保全の活動についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】公園の遊具を使った遊びと、自然の中にあるものを使った遊びについて調べておく。(30分) 【事後学習】講義の中の体験から、公園で遊ぶ際の注意や企画の立て方について各自で整理する。(30分)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>特に指定しない 随時資料を配布。 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p>

参考書	<p>幼児期運動指針策定委員会 2013年 『幼児期運動指針ガイドブック』 文部科学省 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>
評価方法	<p>授業に取り組む態度 (50%)、模擬保育の発表の内容 (30%)、 振り返りコメントや指導案等の提出状況 (20%) *遠隔授業の場合：定期試験はレポートに変更して実施する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 *遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 運動出来る服装で授業にのぞむこと。 *遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で掲示する資料や課題を必ず確認すること。Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時間にスマートフォンやPCで参加できるように準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>(前期) 毎週月曜日 4限目 Nataliya研究室 (西研3-10) (後期) 毎週月曜日 3限目 Nataliya研究室 (西研3-10) *遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>指導案は、評価した後、各自に返却する。</p>

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Childcare Service

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	2単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
平中 尚子・赤嶺 優子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEM3231111		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育・幼児教育についての基礎的な理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、保育の基本や指導の考え方が理解できるようになる。 技能の観点：乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 態度の観点：保育について自ら考えることができる。また、他者との討論をとおして、協働して保育を実践するための態度を獲得できる。</p>
授業の概要	<p>保育・幼児教育の基本を踏まえ、保育の基本や指導の考え方を理解する。また、保育・幼児教育は、環境を通して総合的に指導をすることを理解し、環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。特に、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら遊びの中で子どもがどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを理解する。 乳幼児教育施設での勤務経験を有する担当教員が、実務経験を活かし、保育の基本や指導の考え方について具体的な事例や教材等を踏まえながら講義する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、教育・保育の全体構造の理解 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方について説明する。教育基本法や学校教育法に基づいて、教育が行われることや児童福祉法に基づいて保育が行われることを理解し、教育・保育の全体的構造を理解する。 【事前学習】保育・幼児教育について、テキストや幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に復習する。(2時間) 【事後学習】教育・保育の全体構造について、まとめる。(2時間)</p> <p>第2回 保育内容の歴史的変遷 6領域(健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作)から5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)への変遷について理解する。5領域の充実した内容への変遷、保育の目標、領域と保育内容について理解する。 【事前学習】テキスト第2章を読み、保育内容の変遷と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領保育・幼児教育の関連について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、現在の保育内容について、まとめる。(2時間)</p> <p>第3回 保育・幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながり 保育・幼児教育における5領域のねらいや内容、養護と教育の一体について理解する。 【事前学習】テキスト第3章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、5領域のねらいや内容、養護と教育が一体となって展開する保育について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】保育・幼児教育における5領域のつながりや養護と教育が一体となって展開する保育について、まとめる。(2時間)</p> <p>第4回 保育・幼児教育における教育課程、保育の全体的な計画、指導計画 保育・幼児教育の根拠法令(教育基本法、学校教育法、児童福祉法)及び告示の意味を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の作成について理解する。 【事前学習】テキスト第5章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、保育・幼児教育におけるカリキュラムについて調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】教育課程・保育の全体的な計画・指導計画について、まとめる。(2時間)</p> <p>第5回 子どもの生活と保育内容：3歳未満児の発達と子ども理解 3歳未満児の発達について理解し、生活と遊びに基づいた子ども理解を学ぶ。 【事前学習】テキスト第4章を読み、0・1・2歳児の発達と生活について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】3歳未満児の育ちと保育内容について、まとめる。(2時間)</p> <p>第6回 子どもの生活と保育内容：3歳以上児の発達と子ども理解 3歳以上児の発達について理解し、生活と遊びに基づいた子ども理解を学ぶ。 【事前学習】テキスト第6章と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に3歳以上児の発達と生活を調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】3歳以上児の発達と保育内容について、まとめる。(2時間)</p> <p>第7回 環境を通して行う教育・保育(視聴覚教材の活用) 環境を通して行う教育・保育の基本について理解する。 【事前学習】テキストや幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に環境を通して行う教育・保育について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】環境を通して行う教育・保育について、まとめる。(2時間)</p> <p>第8回 遊びを通じた総合的な指導 保育・幼児教育における5領域のねらいや内容を理解し、遊びを通しての総合的な指導について理解する。</p>

第9回	<p>【事前学習】テキストや幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、遊びを通した総合的な指導について調べ、まとめる。(2時間)</p> <p>【事後学習】遊びを通した総合的な指導について、まとめる。(2時間)</p> <p>支援を要する子どもの理解とクラス運営</p> <p>支援を要する子どもについて、個々の状態に応じて指導内容や指導方法を工夫することの必要性やクラス運営の在り方について理解する。</p>
第10回	<p>【事前学習】テキスト第8章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領やその他の文献を調べて、支援を要する子どもの指導について、まとめる。(2時間)</p> <p>【事後学習】支援を要する子どもの理解とクラス運営について、まとめる。(2時間)</p> <p>幼児教育における見方・考え方：幼児期の教育と児童期の教育</p> <p>幼児期と児童期への接続において、幼児期にふさわしい生活や遊びを通した活動が児童期以降の生活や学習の基盤育成へつながることについて理解する。</p> <p>【事前学習】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、幼児期の教育と児童期の教育について、現状・問題点・課題・接続の方法について調べ、まとめる。(2時間)</p> <p>【事後学習】幼児教育における見方・考え方と児童期への接続の視点(資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)について、まとめる。(2時間)</p>
第11回	<p>保育内容と計画のつながり</p> <p>保育計画の作成について理解する。乳幼児の発達を理解し、生活や遊びによる保育内容とのつながりをふまえて部分案作成を検討する。</p> <p>【事前学習】保育内容(活動名・対象年齢・ねらいや内容・環境構成・活動の流れ・保育者の援助/配慮・他)を踏まえて、部分案の提案資料を作成してくること。(2時間)</p> <p>【事後学習】グループで保育内容(活動名・対象年齢・ねらいと内容、環境構成、活動の流れ、保育者の援助・配慮など)を踏まえて、部分指導案を作成する。(2時間)</p>
第12回	<p>模擬保育の検討：指導案作成(グループ協議)</p> <p>乳幼児の発達を理解し、生活や遊びによる保育内容とのつながりをふまえて模擬保育案(部分案)をグループで作成する。</p> <p>【事前学習】グループで、模擬保育案の内容を検討しておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】グループで保育内容(活動名、対象年齢、ねらいと内容、環境構成、活動の流れ、保育者の援助・配慮など)を踏まえて、部分指導案を作成する。(2時間)</p>
第13回	<p>模擬保育(発表)</p> <p>グループごとに模擬保育を実践する。</p> <p>【事前学習】模擬保育について検討し、グループで役割を決め準備する。(2時間)</p> <p>【事後学習】模擬保育の保育内容(ねらいと内容、環境構成、活動の流れ、保育者の援助・配慮など)を踏まえて、自己の指導案を作成する。(2時間)</p>
第14回	<p>模擬保育の振り返りと省察</p> <p>模擬保育を振り返り、省察する。</p> <p>【事前学習】テキストや幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、保育の計画、実践、省察、評価、改善について確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】模擬保育について、省察、評価、改善を行い、まとめる。(2時間)</p>
第15回	<p>各領域の特性に応じた保育実践の動向と構想</p> <p>領域の特性について理解し、保育実践の動向を構想する。</p> <p>【事前学習】各領域の特性と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について調べ、まとめる。(2時間)</p> <p>【事後学習】領域の特性に応じた保育実践の動向と構想について、まとめる。(2時間)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	清水陽子・森真理 編著 2019年 『共に育つ保育を探究する 保育内容総論』 建帛社
参考書	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法	<p>模擬保育案(部分案)作成(グループ・個人) 20%</p> <p>模擬保育 10%</p> <p>課題 60%</p> <p>①保育の目標</p> <p>②全体的な計画と指導計画</p> <p>③環境を通して行う保育・教育</p> <p>④遊びを通した総合的な指導</p> <p>⑤保育のねらい及び内容</p> <p>⑥養護と教育</p> <p>討議10%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p>

	欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【○】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【 】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	※課題の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	<p>平中：毎週＊曜日＊限目 平中研究室（西研2-8）</p> <p>赤嶺：毎週＊曜日＊限目 赤嶺研究室（西研3-4）</p>
課題に対するフィードバック方法	課題や提出物は、評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目(幼免・保育士：必修)
担当教員			
Podolyak Nataliya			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231215		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ：保育の場で、子どもが安全で健康に生活するために必要な知識と技術の習得を図る。</p> <p>達成目標 知識・理解の観点：1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容を踏まえ、保育者として必要な領域「健康」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、本来の子ども健康についての基礎的な知識を見につける。 2. 乳幼児期の発育発達(身体・運動機能・生活習慣など)の特徴を理解することができる。</p> <p>技能の観点：1. 乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発達発育に対する理解を深め、保育の場における適切な援助や指導できる。 2. 乳幼児期の事故の実態および安全管理と安全教育の留意点を議論することができる。</p> <p>態度の観点：1. 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。 2. 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。</p>
授業の概要	<p>保育の現場においては、子どもの「健康」と「安全」は極めて重要な事項である。本授業では、保育内容「健康」のねらい、内容、方法に関する理解を深めることを目的とする。具体的には、乳幼児の心身の健康に関する内容、健康な生活習慣や安全な生活習慣に関する内容、身体活動に関する内容を指導するとともに、健やかな成長を育む保育方法を指導する。この授業を通じて、保育内容「健康」に関する具体的な保育計画作成へ結びつける手がかりをつかんで欲しい。また、自らの評価とまわりからのフィードバックを基に保育実践を振り返ることを通して、自身の取り組みを改善続けし続ける視点を持つことができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義内容説明、子どもの「健康」とは 一領域「健康」のねらい及び内容の理解—遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載 講義の内容、講義の進め方、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。そして、「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて学習する。 【事前学習】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について教科書のpp. 1-15を学習する。(30分) 【事後学習】今回の講義の内容をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 子どもの健康や生活スタイルの現状と問題点 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載 現代の子どもの健康生活スタイルの現状と問題点について学び、その改善のための保育者に求められる内容についてグループで考え、発表する。 【事前学習】現代の子どもの健康課題としてどのようなものがあげられているか調べ、自らの考えをまとめておく。(30分) 【事後学習】今回の講義の内容をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第3回 子どもの心身の発育・発達と健康*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載 子どもの心身の発育・発達とその特徴について学び、子どもの健全な発達のために必要な保育者の働きかけについて理解する。 【事前学習】教科書のpp. 19-27を読み、乳幼児期の心身の発育・発達の特徴について調べる。(30分) 【事後学習】乳児期と幼児期の心身の発達の違いについて復習する。(30分)</p> <p>第4回 子どもの生活習慣と健康(指導案作成)*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載 子どもの生活習慣が健康に及ぼす影響について知る。または、基本的な生活習慣の形成について理解し、模擬保育に向けて指導案の作成を行う。 【事前学習】教科書のpp. 28-39を読み、保育の現場で行われる子どもの生活習慣の指導方法に、どのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。(30分)</p> <p>第5回 基本的な生活習慣に関わる保育の実践(模擬保育の準備)*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載 基本的な生活習慣の形成について模擬保育の実践に向けて、指導案を作成する。そして、グループで話し合い、模擬保育の内容をまとめる。 【事前学習】各グループで模擬保育に向けて、対象やテーマを決めて、指導案作成をする。(30分) 【事後学習】模擬保育の実践に向けて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第6回 基本的な生活習慣に関わる保育の実践(模擬保育実践と評価)*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>

	<p>基本的な生活習慣の形成について模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら生活習慣の形成指導方法等についてまとめる。</p> <p>【事前学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。(30分) 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。振り返りコメントを書く。(30分)</p>
第7回	<p>食育の推進 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における食育の内容について学ぶ。その後、事例も持ちながら食育の内容、指導方法について理解し、具体的な食育の実践について構想を練る。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.40 - 56を読み、保育の現場で行われている食育にどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】。今回の講義の内容をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p>
第8回	<p>子どもの運動発達と身体活動(情報機器の活用) *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>乳幼児期の運動発達の特徴について理解する。また、情報機器も使いながら、子どもの動作の特徴を観察し、なぜ子どもの発達に運動遊びが必要なのかについて理解する。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.57 - 68を読み、運動遊びが子どもにもたらす効果について調べる。(30分) 【事後学習】なぜ幼児期には体育指導ではなく、「運動遊び」が必要とされているのか各自で調べ、整理しておく。(30分)</p>
第9回	<p>子どもの運動遊びの実際(ビデオ視聴) *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>運動遊びの展開について『幼児期運動指針ガイド』ビデオ視聴をし、運動遊びの指導法について理解する。その後、グループで具体的な保育場面を想定しながら、運動遊びの指導案を作成する。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.100 - 113を読み、年齢や発達の特徴を踏まえて、運動遊びの実践について調べる。(30分) 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。(30分)</p>
第10回	<p>運動遊びの計画と準備 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>身近な運動用具を使った見立ての運動遊びの計画し、模擬保育の実践に向けて準備やリハーサルを行う。</p> <p>【事前学習】ビデオの内容をノートにまとめる。感想文を書く。(30分) 【事後学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。(30分)</p>
第11回	<p>運動遊びの指導実践 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>運動遊びの指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら運動遊びの指導方法等についてまとめる。</p> <p>【事前学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。(30分) 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。(30分)</p>
第12回	<p>子どもの怪我、事故の危険防止 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>保育の場における発生している怪我・事故について知る。その他、事故の予防と応急処置の際の注意について学ぶ。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.69-74、67-181を読み、過去と比べて、現代の子どもの怪我や事故の状況がどのように変化しているかについて調べる。(30分) 【事後学習】それぞれの応急処置について復習し、練習を行う。また、保育の現場では、事故が起らないようにどのような安全教育が行われているか調べる。(30分)</p>
第13回	<p>安全教育と安全管理の必要性 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>子ども遊びの安全管理と安全教育について知る。また、保育の場における安全教育の指導法について学ぶ。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.69-85を読み、保育の場におけるどのような安全教育が行われているか調べる。(30分) 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。(30分)</p>
第14回	<p>安全教育の模擬保育実践と評価 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>子どもの健康を守るために、健康管理や安全教育について指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら健康保育や安全教育の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>【事前学習】保育実践の中で行われるPDCEがどのようなプロセスで行われているか調べる。(30分) 【事後学習】実践を評価する方法とその意義について、各自で整理しておく。(30分)</p>
第15回	<p>領域『健康』と小学校教育とのつながり *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>保育所・幼稚園と小学校をつなぐことの意義とその具体的な内容について正しく理解し、グループワークを用いて、将来を想定した保育構想について考える。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.157 - 166を読み、保幼小の連携として、どのような実践が行われているか調べる。(30分) 【事後学習】各自で、今後の保幼小の連携についてのアイデアを1つ以上あげる。(30分)</p>
第16回	<p>定期試験 *遠隔授業の場合、レポートに変更して実施する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p>

	3) ICTの活用 4) 初年次教育 5) 実践的PBL	【○】 【】
テキスト	重案智子・案見克夫（編集者）2020年『保育内容「健康」一遊びや生活から健やかな心と体を育むー』ミネル プア書房 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館	
参考書	文部科学省 2012年 『幼児期運動指針』	
評価方法	定期試験（50%）、受講態度（30%）、受講者発表（20%） ＊遠隔授業の場合：定期試験をレポートに変更して実施する。 レポート（50%）、授業内で実施する確認テスト（30%）、授業への参加度（20%）	
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ＊遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。	
履修上の注意	講義だけではなく、指導案作成、模擬保育の実践も行います。 グループの活動も取り入れながら、授業をすすめます。 ＊遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で資料や課題を必ず確認すること。また、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。	
オフィスアワー	(前期) 毎週月曜日 3限目 Nataliya研究室 (西研3-10) (後期) 毎週月曜日 4限目 Nataliya研究室 (西研3-10) ＊遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。	
課題に対するフィードバック方法	・課題、試験等は、評価して各自に返却します。	

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
赤嶺 優子			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231212		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 (1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針で示されている幼児教育・保育の基本を踏まえて、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。 (2) 乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる乳幼児教育施設での具体的な指導を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が体験し身に付いていく内容と指導上の留意点を理解する。 技能の観点：ねらいや内容を踏まえた指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 態度の観点：模擬保育やロールプレイを通して実践を振り返り、保育を改善する視点を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。また、乳幼児の姿から理論と実践が繋がった教育内容を理解させる。</p> <p>幼児教育施設において勤務経験を有する担当教員が、その実務経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に示された領域「人間関係」の内容について、具体的な例を紹介する。さらに、教材の活用および指導法等について解説する。</p> <p>また、各々領域「人間関係」のねらいや内容を踏まえた活動を考え指導案を作成する。その指導案についてグループで検討し、保育技術を培うために模擬保育をする。その模擬保育についてグループの仲間と振り返り、保育を改善していく術を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・現代社会と乳幼児の人間関係について (遠隔の場合：Microsoft Teams を利用)</p> <p>講義概要説明、評価方法、授業の進め方について</p> <p>昔の乳幼児の生育環境と現代社会の乳幼児の生育環境と人間関係について</p> <p>【事前学習】 自己の生育環境について、身近な家族から聞き、まとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 今と昔の生育環境および社会情勢について、理解したことをまとめる。(30分)</p> <p>第2回 領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて (遠隔の場合：Microsoft Teams を利用)</p> <p>領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて</p> <p>【事前学習】 幼児教育のガイドランを通して、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容について、調べまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容との関連性(繋がり)について、まとめる(30分)</p> <p>第3回 乳児期における人間関係の発達について (遠隔の場合：Microsoft Teams を利用)</p> <p>幼児期の発達と信頼関係から構築される人間関係の発達について</p> <p>【事前学習】 テキストp42～p48まで読み、乳児期の発達と信頼関係について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 乳児期における人間関係の発達について、まとめる。(30分)</p> <p>第4回 乳幼児期の自立心の育ちについて (遠隔の場合：Microsoft Teams を利用)</p> <p>自分のことは自分でする自立心の芽生えを育む関わりについて</p> <p>【事前学習】 テキストp76～p90までを読み、乳幼児期の生活と発達と自立心の芽生えの育ちについて、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 乳幼児期の自立心の育ちについて、まとめる。(30分)</p>

第5回	乳幼児期の発達と自立心を育む援助について（遠隔の場合Microsoft Teams を利用）
	乳幼児期の発達と自分のことは自分でする自立心を育む援助について
	<p>【事前学習】 テキストp 90～p 105まで読み、乳幼児期の生活と発達、自分のことは自分でする自立心を育む援助について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後学習】 乳幼児期の発達と自立心を育む援助について、まとめる。（30分）</p>
第6回	幼児期における人間関係の発達について（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）
	幼児期の生活や発達をとおした人間関係の広がりについて
	<p>【事前学習】 テキストp 48～p 57まで読み、幼児期の生活と発達、人間関係の広がりについて、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後学習】 幼児期における人間関係の発達について、まとめる。（30分）</p>
第7回	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方について（視聴覚教材の活用）（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）
	DVD視聴をとおしてのグループ討議について
	<p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕の(3)と〔内容〕(6)〔内容の取扱い〕(4)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後学習】 友達と遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方について、自分で理解したことや理解できなかったことをグループの討議内容から、まとめる。（30分）</p>
第8回	幼児期の協同性の育ち：目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ちについて（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）
	協同性をとおしてみえる協同に向かう幼児同士の関わりと育ちについて
	<p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」の〔ねらい〕(2)と〔内容〕(8)〔内容の取扱い〕(3)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後学習】 幼児期の協同性の育ちについて、まとめる。（30分）</p>
第9回	決まりに関する幼児の葛藤と援助について（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）
	決まりに関する幼児の葛藤と援助について
	<p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕(3)〔内容〕(11)〔内容の取扱い〕(5)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後学習】 決まりに関する幼児の葛藤と援助について、まとめる。（30分）</p>
第10回	個と集団の育ちについて（視聴覚教材の活用）（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）
	DVD視聴をとおして捉える個と集団の育ち「共通の遊具や用具を大切にし、みんなで使う」について
	<p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕(3)と〔内容〕(12)〔内容の取扱い〕(6)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後学習】 個と集団の育ちについて、まとめる。（30分）</p>
第11回	協同的な遊びの中で育ちあう人との関わり（指導案作成）について（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）
	指導案作成について
	<p>【事前指導】 各自で「協同的な遊びの中で育ちあう人との関わり」に関する事例内容（活動名・協同的な遊び・育ちあう場面・他）を考え、まとめておくこと。（30分）</p>
	<p>【事後指導】 グループで、事例内容（活動名・協同的な遊び・育ちあう場面・他）を検討し、幼児教育における資質・能力と10の姿、領域「人間関係」のねらいと〔内容〕(4) (7) (8)〔内容の取扱い〕(3)を踏まえ、指導案を作成する。（30分）</p>
第12回	協同的な遊びの中で育ちあう人との関わり（模擬保育）について（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用）

	<p>グループで協同的な遊びに関する事例内容を考えた、模擬保育の準備について</p> <p>【事前学習】 グループで模擬保育について準備し、ポイントををまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 協同的な遊びの中で育ちあう人との関わりについて、まとめる。(30分)</p> <p>第13回 交流保育の中で育つ人との関わりについて(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)</p> <p>交流保育の中で育つ人との関わりについて</p> <p>【事前学習】 文献などを通して、交流保育について調べ、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 交流保育の中で育つ人との関わりについて、まとめる。(30分)</p> <p>第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校以降の生活や学習で生かされる力について</p> <p>【事前学習】 幼児教育のガイドランから、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について調べて整理し、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(40分)</p> <p>【事後学習】 幼児教育から小学校教育への接続を意識した視点について、まとめる。(20分)</p> <p>第15回 領域「人間関係」をめぐる諸問題とまとめ(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)</p> <p>現代社会から見える、人間関係に関する諸問題について</p> <p>【事前学習】 テキストp144～p166までを読み、現代社会から見える「人間関係」に関する諸問題について、考えてくること。(40分)</p> <p>【事後学習】 領域「人間関係」に関する諸問題から見える幼児教育の在り方について、まとめる。(20分)</p> <p>第16回 定期試験(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>清水陽子/門田理世/牧野桂一/松井尚子〔編著〕2017年『保育の理論と実践』ミネルヴァ書房 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p>
参考書	<p>厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>
評価方法	試験60%、課題40%で総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」他の課題を課す。
オフィスアワー	赤嶺：木曜日4限目 西3-4研究室
課題に対するフィードバック方法	予習・復習(領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」・事前事後学習内容)の課題を課す。課題は、評価し授業内に返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
照屋 建太			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3231213	※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを用いる。	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育環境の理解と活用</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：身近な環境を利用し、乳幼児の発達、経験を通した学びの過程を踏まえた場面を想定した指導方法を身につける。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を身につける。 技能の観点：乳幼児期の発達や経験を通した学びの過程を理解し、具体的な場面を想定した保育を構想することができる。 態度の観点：質問に対して積極的に回答することができる。グループ活動では、仲間と協調できる。</p>
授業の概要	<p>この授業では、領域「環境」を中心にその意義・内容について理解する。また、周囲の様々な環境に関わり、環境構成する力を養う。物の性質や数量、文字の取り扱いについて学ぶ。さらに、乳幼児の発達を踏まえた上で、環境について意図的に考え、計画する方法を自ら考える。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、乳幼児の保育環境や生活環境を考える ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における5領域の概要説明。そして、乳幼児の保育環境や生活環境の実態を考える。 【事前学習】保育における環境について、自らの考えをまとめておくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 グループ学習(環境観察、教材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 学生自ら環境を観察し、乳幼児にとって魅力的な環境についてグループで考え、発表する。 【事前学習】環境とは何を指しているか、自らの考えをまとめておくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。出された復習問題を行う。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第3回 保育内容「環境」の意義、領域「環境」をより良く理解するために ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 5領域の中にある領域「環境」の意義を考える。そして、その環境について具体例を考え理解を深める。 【事前学習】テキストの第1章領域「環境」の意義、第3章領域「環境」をより良く理解するために読んでおくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行うこと。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第4回 領域「環境」のねらいと内容 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 領域「環境」のねらいと内容についてしっかり把握する。 【事前学習】テキストの第2章領域「環境」の概要を読んでおくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第5回 好奇心・探究心のはぐくみ、物の性質や数量・文字の取り扱い ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼児にとって好奇心・探究心の出る環境を考える。また、身近な環境から数量や文字の取り扱い方法を把握する。 【事前学習】テキストの第7章数量や文字などへの興味を読んでおくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第6回 子どもの発達と環境、基本的生活習慣の自立 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 子どもの発達環境を考える。また、近年の乳幼児の基本的生活習慣について実態を踏まえ把握する。 【事前学習】テキストの第4章子どもの発達と環境、第5章子どもと環境との関わりを読んでおくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第7回 自然環境を活用した実践事例(情報機器の活用) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 自然環境を利用した保育実践を視聴し、自分の考えをまとめる。 【事前学習】「里山」とは何か調べ、ノート等にまとめておくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義についてレポートを提出する。振り返りコメントを書く。(60分)</p> <p>第8回 自然に親しむー生命の尊さ、自然との関わりと保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 自然に親しむことで、命の尊さについて学ぶ。また、自然との関わりから保育について考える。 【事前学習】テキストの第6章自然に親しむー生命の尊さを読んでおくこと。(30分) 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。(30分)</p>

第9回	<p>自然環境（ビオトープについて）を利用した保育実践（情報機器の活用） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>自然環境を利用した保育実践（ビオトープ）の事例について実際に体験し、学ぶ。 【事前学習】「ビオトープ」とは何か調べておくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。（30分）</p>
第10回	<p>生活と関係する行事・文化、子どもを取り巻く情報機器（情報機器の活用） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>生活と関係する行事や文化等を学ぶ。また、近年における保育の情報機器利用について事例を通して考える。 【事前学習】テキストの第8章生活と関係する行事・文化、第9章子どもを取り巻く情報機器を読んでおくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。（30分）</p>
第11回	<p>指導計画と評価 ー領域「環境」の視点から（教材の活用） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>これまで学んだ保育環境の学びから、教材の活用方法を自ら考える。 【事前学習】テキストの第10章指導計画と評価-「環境」の観点からを読んでおくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。演習の振り返りコメントを書く。（30分）</p>
第12回	<p>グループ学習（身近な植物の特徴を知る、教材研究） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>身近な植物の特徴や生育環境、保育での利用方法についてグループで学ぶ。 【事前学習】身近な植物にはどのようなものがあるか、調べておくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。（30分）</p>
第13回	<p>0歳から2歳児の保育と環境、3歳から6歳児の保育と環境（模擬保育等の実践的内容） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>保育環境について模擬保育等の実践的内容を考える。 【事前学習】テキストの第11章0～2歳児の保育と環境、第12章3～6歳児の保育と環境を読んでおくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。（30分）</p>
第14回	<p>保幼こ小との連携、特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>近年の保幼こ小連携と特別な支援を要する子ども達的环境について学ぶ。 【事前学習】テキストの第13章小学校との連携、第14章特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」を読んでおくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。毎回出される復習問題を行う。振り返りコメントを書く。（30分）</p>
第15回	<p>現代社会に内包する環境の問題、領域「環境」、レポート提出 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>現代の保育環境に関する問題を考える。領域「環境」のまとめのレポートを書く。 【事前学習】テキストの第15章現代社会に内包する環境問題を読んでおくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義を受け、レポートを作成し提出する。振り返りコメントを書く。（60分）</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>大沢裕・野末晃秀 2018年『コンパクト版 保育内容シリーズ「環境」』一藝社 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 その他、必要に応じてプリントは配付する。</p>
参考書	<p>沖縄生物教育研究会編 2012年『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 その他、必要に応じて紹介する。</p>
評価方法	<p>まとめのレポート（50%）、振り返りのコメント（30%）、課題レポート（10%）、受講態度（10%）</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) ー：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p>

	【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。 事後学習（振り返り）のコメントをMicrosoft Teamsから提出すること。（200字程度） ※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。Microsoft Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時間にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。
オフィスアワー	（前期）毎週月曜日 2限目 照屋研究室（西研3-9） （後期）毎週月曜日 2限目 照屋研究室（西研3-9） ※遠隔授業期間においては、Microsoft Teams、メール等を利用し相談を行う。（アドレス：teruken@ocjc.ac.jp）
課題に対するフィードバック方法	提出された課題は、講義最終日に返却する。 ※遠隔授業の際は、Microsoft Teamsを使用する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
山盛 淳子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEM3232214		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 言葉の指導法についての内容理解と実践</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、保育を構想する方法について理解する。 技能の観点：具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行うことができる。 態度の観点：模擬保育や実技演習を振り返り、保育を改善しようとすることができる。</p>
授業の概要	<p>領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。また指導案の作成について学び、模擬保育や実技演習を行い、振り返りを通して保育を改善する視点を身につける。本講義では、幼稚園及びこども園での実務経験のある担当教員が、実務経験を活かし、乳幼児の言葉を育むための基本的な実践技術について指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、領域「言葉」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における領域「言葉」について概要説明。 【事前学習】1年次に学習した「幼児の言葉」の概要を想起する。(30分) 【事後学習】言葉の働きについてノートにまとめる。(30分)</p> <p>第2回 子どもの「言葉」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 子どもが発する言葉にはどんな意味が込められているのか、子どもたちは何を感じ、思い、体験しながら他者に語りかけているのか、事例から学ぶ。 【事前学習】ごっこ遊び、劇遊びの教育的意義を調べる。(30分) 【事後学習】子どもの遊びに保育者としてどのように関わるとよいか考察し、ノートにまとめる。(30分)</p> <p>第3回 保育者の「言葉」① 子ども理解と寄り添うことから生まれる言葉 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 子どもたちが園で安心して生活を送ることができるよう、子どもに寄り添った関わりの大切さについて学ぶ。 【事前学習】教科書を読んでノンバーバル・コミュニケーションについて調べる。(30分) 【事後学習】子どもに寄り添うとはどのようなことなのか考察し、ノートにまとめる。(30分)</p> <p>第4回 保育者の「言葉」② 保育者としての言葉 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育者自身が発する言葉は子どもたちのモデルであることを理解する。 【事前学習】自身の経験において、嬉しかった言葉、悲しかった言葉をノートに記録しておく。(30分) 【事後学習】教科書の事例を読んで考察し、レポートにまとめる。(30分)</p> <p>第5回 領域「言葉」と小学校教育「国語」 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 領域「言葉」と小学校学習指導要領「国語科」との繋がりについて学ぶ。 【事前学習】小学校学習指導要領「国語科」について調べる。(30分) 【事後学習】小学校学習指導要領「国語科」と幼稚園教育要領「言葉」の相違をレポートにまとめる。(30分)</p> <p>第6回 言葉に課題のある子どもと保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 言葉に課題のある子どもの実際について理解する。また、園生活における支援について学ぶ。 【事前学習】言葉に障がいがある子への対応の仕方を自分なりに考えノートにまとめる。(30分) 【事後学習】講義で学んだことや考えたことをノートにまとめる。(30分)</p> <p>第7回 言葉の指導と計画 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 指導案の構造を理解し、指導案作成の方法について学ぶ。 【事前学習】指導案を作成する目的について、ノートにまとめる。(30分) 【事後学習】講義で学んだことや考えたことをノートにまとめる。(30分)</p> <p>第8回 第8回 言葉と遊び演習① 乳幼児の言葉遊び・わらべ歌(指導案作成・グループでの実演) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 言葉遊びやわらべ歌に関する部分指導案を作成し、グループで実演する。 【事前学習】1年次で習得したわらべ歌を想起し歌えるように練習する。(30分) 【事後学習】作成した部分指導案、振り返り・感想を提出する。(30分)</p> <p>第9回 言葉と遊び演習② 沖縄の昔話を素話で語る(指導案作成・グループでの実演) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 沖縄の昔話に関する部分指導案を作成し、グループで実演する。 【事前学習】沖縄の昔話や伝説を選定し、口演できるように練習する。(30分) 【事後学習】作成した部分指導案、振り返り・感想を提出する。(30分)</p> <p>第10回 言葉と遊び演習③ 絵本の読み聞かせ(指導案作成・グループでの実演) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 絵本の読み聞かせに関する部分指導案を作成し、グループで実演する。 【事前学習】絵本を選定し、読み聞かせの練習をする。(30分) 【事後学習】作成した部分指導案、振り返り・感想を提出する。(30分)</p> <p>第11回 言葉と遊び演習④ 紙芝居(指導案作成・グループでの実演) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p>

	<p>紙芝居の読み聞かせに関する部分指導案を作成し、グループで実演する。 【事前学習】紙芝居を選定し、読み聞かせの練習をする。(30分) 【事後学習】作成した部分指導案、振り返り・感想を提出する。(30分)</p> <p>第12回 言葉と遊び演習⑤ パネルシアター・エプロンシアター・人形劇(指導案作成・グループでの実演) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 パネルシアター・エプロンシアター・人形劇に関する部分指導案をグループで作成し、実演する。 【事前学習】教材を選定し、グループで練習する。(30分) 【事後学習】作成した部分指導案、振り返り・感想を提出する。(30分)</p> <p>第13回 言葉と遊び演習⑥ 劇あそび(指導案作成・グループでの実演) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 グループで劇遊びを体験し、子どものイメージがより豊かに広がるための保育者の援助方法を考える。 【事前学習】劇遊びの題材について調べる。(30分) 【事後学習】劇遊びで体験を振り返り、感想を提出する(30分)</p> <p>第14回 言葉と遊び演習⑦ 模擬保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 模擬保育の目的について理解する。作成した指導案をもとに模擬保育を行い、実演についての意見交換を行う。 【事前学習】教材選定、指導案作成を行い、練習する。(30分) 【事後学習】作成した部分指導案と反省・評価を提出する。(30分)</p> <p>第15回 言葉と遊び演習⑧ 模擬保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 前回の模擬保育の振り返りを行う。また、作成した指導案をもとに模擬保育を行い、実演についての意見交換を行う。 【事前学習】それぞれの実演を見た感想を提出する(30分) 【事後学習】模擬保育において学んだことをまとめる(30分)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	『コンパス 保育内容 言葉 第二版』内藤和美・新井美保子(編著)建帛社 2018年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年
評価方法	課題の提出状況と内容:40%, 発表:50%(指導案作成・実演・模擬保育), 受講態度:10%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定する。 秀 (A) 90点以上:到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点~90点未満:到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点~80点未満:到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点~70点未満:到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満:到達目標を達成していない 欠 (K) - :出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	提出物は期限厳守、グループ活動への参加と発表の取り組み(評価対象) 学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が言葉を豊かに話せるよう努める
オフィスアワー	毎週*曜日*限目 平中研究室(西研2-8)
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価後に返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
奥原 友紀乃・津下 美奈子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEM3231216		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 音楽表現の基礎技術の習得と教材研究</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：音楽表現に関する基礎的知識を、理解することができる。 技能の観点：演習や教材研究を通し、音楽表現に必要な技能を身につける。 態度の観点：積極的に授業に参加し、グループで協力して取り組める。</p>
授業の概要	<p>身体を通して音楽を感じ、考え、表現することや、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、幼児教育現場や保育現場で活用できる手遊びや歌遊び、音楽的身体創作表現など、具体的な教材研究を踏まえ、指導案作成や模擬保育を通して発展的、総合的に指導の工夫ができるようにする。更に、これらを活かし、積極的な授業への参加とグループでの活動や発表を通し、歌を歌ったり楽器などを用いて「表現」の楽しさを感じられるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、領域「表現」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」について学ぶ。 ・イントロダクションでボイス・アンサンブルを学ぶ。 【事前学習】「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」についての部分を読む。(30分) 【事後学習】ボイス・アンサンブルで学習したリズムを復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。 <p>第2回 リトミック音楽教育の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダルクローズ教育法について：リトミックの発祥地である、スイスのリトミック音楽教育をDVD学習を通して学び、リトミックの原点を知る。(ICTの活用) ・DVD学習の感想を提出する。 【事前学習】リトミックについて図書館の本等で調べる。(30分) 【事後学習】リトミックの他にも様々な音楽教育があることを本やインターネットで調べる。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。 <p>第3回 拍の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎リズムのリズム打ちとステップ(歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ)を獲得する。 ・ボディー・パーカッションを学ぶ。 【事前学習】ボディー・パーカッションにはどのようなものがあるか調べ、インターネット等で見たり聞いたりする。(30分) 【事後学習】基礎リズムを復習し、リズム打ちとステップを確実に身につける。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。 <p>第4回 リズムパターンとフレージング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムパターンとフレージングについて幼児曲を活用して学ぶ。 ・ボディー・パーカッションを学ぶ。 ・手遊び、歌遊びを学ぶ。 【事前学習】手遊びもしくは歌遊びを、少なくとも一つ習得する。(30分) 【事後学習】ボディー・パーカッションで学んだ様々なリズムを、正確に叩けるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。 <p>第5回 教材研究①楽曲の音楽的イメージによる身体表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある楽曲を聞き、音楽の強弱やテンポ、楽曲の展開などについて考え、各グループで創意工夫し発表する。(ICTの活用) ・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。 ・手遊び、歌遊びを学ぶ。 【事前学習】手遊びもしくは歌遊びのレパートリーを増やす。(30分) 【事後学習】様々な楽曲を聞き、音楽的イメージを考える。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。 <p>第6回 リズムパターンとポリリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムパターンとポリリズムについて学ぶ。 ・ポリリズムのリズム打ちやステップを行う。 【事前学習】ポリリズムについて、本やインターネットで調べる。(30分) 【事後学習】ポリリズムを正確に叩けるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。 <p>第7回 教材研究②拍子感とアナクルーシス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍子感とアナクルーシスについて、簡易楽器やボールを使って学ぶ。 ・音楽的な拍子感(4拍子・3拍子・2拍子)について、身体で理解し獲得する。 ・アナクルーシスについて、音楽でいかに重要か身体を通して理解し獲得する。 【事前学習】テキスト内の楽曲数曲に目を通し、どのような拍子があるか考察する。(30分) 【事後学習】拍子の復習として、異なる拍子の楽曲を歌うなどし理解を深める。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。

	<p>第8回 教材研究③3拍子とカノン ・「ぞうさん」、「エーデルワイス」など既成曲を歌唱しながら、3拍子を身体で理解し獲得する。 ・カノンについて学ぶ。 ・「うみ」を題材とし、小学校の音楽との学びの連続性について考える。 【事前学習】3拍子の幼児曲を歌うもしくはピアノで練習する。(30分) 【事後学習】友人と共に、カノンで歌うもしくはリズム打ちを行い、カノンを獲得する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第9回 教材研究④幼児曲を題材にした身体創作表現 ・幼児曲を題材にして、各グループで音楽的身体創作表現を創意工夫して発表する。 ・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。 【事前学習】幼児曲を少なくとも1曲選択し、どのような表現ができるか考える。(30分) 【事後学習】事前学習にて選択した楽曲で、事前学習とは異なる表現を考える。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第10回 教材研究⑤合奏 ・様々な楽器の名称及び奏法を学ぶ。 ・合奏の題材を各グループで選択し、練習を踏まえて発表する。 【事前学習】本やインターネットを通し、子どもが触れる楽器について調べる。(30分) 【事後学習】合奏の練習と発表を踏まえ、楽器の名称及び奏法を復習し獲得する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第11回 模擬保育①手遊び、歌遊び ・手遊びもしくは歌遊びを選曲し、模擬保育を想定したグループ発表をする。(学生のICT活用を含む) ・各グループの発表を相互に評価し合い、ディスカッションする。 【事前学習】手遊びもしくは歌遊びを練習し確実に覚える。(30分) 【事後学習】より多くの手遊びを習得できるよう練習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第12回 指導案作成①指導案の作成 ・教材研究①～⑤の題材から選択し、模擬保育の指導案をグループで作成する。 【事前学習】これまでに行った教材研究①～⑤を復習する。(30分) 【事後学習】指導案の完成と模擬保育の実施に向け、必要な準備や練習をする。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第13回 指導案作成②指導案の完成 ・指導案を完成させ、模擬保育に向けグループで役割分担や練習をする。 【事前学習】個人で行えるピアノなどの練習をする。(30分) 【事後学習】模擬保育に向け、不足している物を確認し、練習をする。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第14回 模擬保育②指導案を元に ・完成した指導案を元に、保育者役と子ども役にわかれグループで模擬保育を行う。 【事前学習】指導案の流れを覚え、スムーズに模擬保育が行えるようイメージする。(30分) 【事後学習】模擬保育の自己反省をまとめる。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第15回 模擬保育の振り返り、まとめ ・各グループで行った模擬保育を振り返り、相互に評価し合いディスカッションする。 ・授業のまとめを行う。 【事前学習】自己反省に加え、他のグループの模擬保育で気付いた点をまとめる。(30分) 【事後学習】これまでの学習を振り返り、模擬保育の反省を含めたレポートを提出する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】第5.9.10.11.12.13.14回の授業において、グループで協力して取り組む。 2) 情報リテラシーに関する科目 3) ICTの活用 4) 初年次教育 5) 実践的PBL
テキスト	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 鈴木恵津子 富田英也 監修・編著 2015年 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社 必要に応じて適宜コピー資料を配付する
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 必要に応じて適宜資料を配付する
評価方法	①受講者の発表30% (教材研究①～⑤への取り組みと発表の参加度を、グループ課題により評価) ②小テスト及びレポート課題35% (リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、カノンの実技と、教材研究発表後の感想などを含むレポート課題を、個人課題により評価) ③指導案作成及び模擬保育25% ④受講態度10% ※遠隔授業の場合、発表等を動画提出に変更して実施する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更する可能性があるため、ルーブリックについても同様。詳細は講義内で説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。

	<p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>軽装、室内シューズで受講すること。</p> <p>※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で掲示する説明や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する際は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>奥原：授業終了後に質問を受け付けます。</p> <p>※遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3231217		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育内容の各領域を総合的に捉え、幼児の造形活動における発達段階を学び、子どもの発達と造形活動との関わりを理解することができる。また、ものの色や形や質感、音や匂いなど五感を取り入れた表現活動を通して表現の面白さを確認し、表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 ①知識・理解：領域「表現」のねらいや内容、指導上の留意点、評価、小学校の教科等とのつながりを理解する。また、幼児の造形活動における発達段階を理解する。 ②技能：幼児の発達段階に合わせた表現活動を構想し、指導案を作成、実践することができる。 ③態度：積極的に製作活動、課題、発表に取り組み、保育者としての態度と視点を身につける。</p>
授業の概要	はじめに領域「表現」のねらい及び内容について学び、幼児の表現が人を含む環境との関わり合いの中で変化することを確認する。また、このような表現活動を通して得られた経験や感性が、小学校以降の教育へつながることを理解する。さらに演習を通して幼児の表現を体験し、幼児の表現の特徴や面白さに気づき、造形表現活動における発達段階への理解を深め、保育現場で使用される用具や材料の扱い方や安全面への配慮について学ぶ。最後に指導案を作成し、模擬保育を行い、振り返りを通して保育を改善する視点を身につける。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、領域「表現」のねらい及び内容について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーションを行う。教科書をもとに「造形表現活動の意義」について考える。また、領域「表現」のねらい及び内容について学び、幼稚園・小学校・中学校へとつながる美術教育について理解を深め、自分の図工や美術の歩みを振り返る。 【事前学習】教科書第1章を読んでおく。(30分) 【事後学習】自分の図工や美術の歩みをふりかえる。(30分)</p> <p>第2回 自然環境や描画材と出会うー自然・鉛筆・クレヨン(素材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 鉛筆やクレヨンやパスの特徴を学び、クレヨンやパスで展開できる表現活動を学ぶ。また、クレヨンで音や匂いを色と形で表現する、またフロッタージュで環境を写し取るなど、五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点について考える。 【事前学習】テキスト第3章を中心に読んでおく。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第3回 描画材と出会うー絵の具(素材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 絵の具の種類について学ぶ。また、共同絵の具といった保育教育現場での絵の具の用いられ方について学び、表現方法について考える。 【事前学習】テキスト第3章を中心に読んでおく。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第4回 偶然性による表現に出会うー絵の具(素材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 絵の具を用いた偶然性の高い表現活動を通して、予想できない表現を楽しむ。またこれらの素材や描画材を用いる際の留意点について考える。 【事前学習】テキスト第3章を中心に読んでおく。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第5回 造形教育の歴史と子どもの描画理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 日本の保育の中で造形指導はどのように取り入れられてきたのか、明治以降の幼児教育の歴史とともに、国内外の主な美術教育思潮について学ぶ。また、これまで国内外の研究者によって明らかにされている年齢による描画表現の発達段階について知り、子どもの絵の見方を学ぶ。 【事前学習】テキスト第2章を読んでおく。(30分) 【事後学習】授業で得られた気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第6回 素材や道具と出会うー紙(素材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 様々な種類の紙(ティッシュペーパーや新聞紙、折り紙など)の特徴と、表現方法(破る・ちぎる・丸めるなど)について考える。また新聞紙を用いた活動について実践する。 【事前学習】テキスト第3章を中心に読んでおく。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第7回 素材や道具と出会うーはさみ・のり(素材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 紙を加工する上で欠かせない用具であるはさみやのりの導入について学ぶ。発達段階に合った活動、ねらいに適した紙素材、そして用具を準備することを学ぶ。 【事前学習】テキスト第3章を中心に読んでおく。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと学びをまとめる。(30分)</p> <p>第8回 身近な素材を用いて表現するー廃材の取り入れた立体製作ー(素材研究) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 身近な素材(紙コップ・ペットボトルなど)を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や、活動の面白さ、留意点などを考える。また、幼児の製作意欲を刺激するために集まった素材をどう環境に配置していくのか、どういった声掛けが必要なのかを学生に考えてもらい提案の機会を与える。</p>

<p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>第16回</p>	<p>【事前学習】なるべくいろいろな種類の素材を集める。(30分) 【事後学習】実践後の気づきと学びをまとめる。(30分) インクルーシブ保育における表現活動の可能性 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 2006年12月に、国連総会において採択された「障害者の権利に関する条約」を基に、インクルーシブ教育についての概要を説明する。また、沖縄の障がい児・者による美術作品展を紹介し、インクルーシブ保育における表現活動の可能性について考える。</p> <p>【事前学習】沖縄ではどのような障がい児・者による美術展があるのか調べておく。(30分) 【事後学習】授業で得られた気づきと学びをまとめる。(30分) 領域「表現」における情報機器及び教材の活用法 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼児の表現活動を幼児の間で共有し認め合うための方法の一つとして、画像や映像等を提示することを学ぶ。また、保育者や保護者にとっての幼児の表現活動を視覚化することの意味や効果についても学ぶ。授業では学生同士が、作品を製作する過程を記録し合い、お互いに鑑賞・評価することをとおして視覚化することの意味を経験を基に学ぶ。</p> <p>【事前学習】第4章を読んでおく(30分) 【事後学習】授業で得られた気づきと学びをまとめる。(30分) 見て・触って・感じるー乳児期の道具を使わない表現活動 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳児の視点で活動を体験し、乳児に合った道具を使わない造形素材の知識と技能をみにつける。また、乳児ならではの身近なものや環境とのかかわりの姿や表現に関心を持ち、体験を通して考察を深める。</p> <p>【事前学習】第5章を読んでおく(30分) 【事後学習】実践後の学びと気づきをまとめる。(30分) 表現活動の実践(指導案作成) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 これまでの学びをふまえ、表現活動指導案の作成、教材研究を行う。幼児に身に付けてほしい事柄や経験から教材研究を再考し、「ねらい」「内容」「環境設定」について考え、指導案を再作成する。</p> <p>【事前学習】第6章を読んでおく。(30分) 【事後学習】授業内容をもとに指導案を完成させる。(30分) 指導案をもとに模擬保育を行う(模擬保育) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 作成した指導案を踏まえ、各グループで幼児の様子を予想し、先生役と子ども役に分かれ模擬保育を行う。また、各グループから1名撮影係を決め、模擬保育の様子を記録する。</p> <p>【事前学習】各グループに必要な道具を準備しておく。(30分) 【事後学習】授業で得られた気づきと学びをまとめる。(30分) 模擬保育の振り返り(振り返り) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 各グループの模擬保育の様子を動画で振り返り、幼児の表現がさらに育まれるための活動のねらいや設定、教材や道具、教材研究の適切さ、言葉がけなど振り返り、意見交換を行い、学びを深める。</p> <p>【事前学習】第6章を読んでおく。(30分) 【事後学習】模擬保育を通して出た反省点をもとに、振り返りシートを完成させ、ポートフォリオと一緒に提出する。(30分) 子どもの造形指導の展開 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉がけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。表現は幼児の遊びや生活の中に見られること、表現は生活を豊かにすること、そのためには出会う人、もの、事柄に心動かされるような感性を保育者自身が身に付け、年齢に応じた環境を構成できることの大切さを確認する。</p> <p>【事前学習】第7章を読んでおく。(30分) 【事後学習】授業で得られた気づきと学びをまとめる。(30分)。</p> <p>なし</p>
<p>授業における具体的な特色や方法</p>	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
<p>テキスト</p>	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 開成出版 2019年 『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵</p>
<p>参考書</p>	<p>久富陽子編 2016年 『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』 萌文書林 福田泰雅・磯部錦司著 2015年 『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践から一』 小学館 槇英子 2011年 『保育をひらく造形表現』 萌文書林</p>
<p>評価方法</p>	<p>全授業を通して、学習内容の様子や気づきをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に学びの過程を評価する。演習で製作した作品(60%)、小レポート・指導案・最終レポート等(40%)。</p>
<p>評価基準</p>	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。
オフィスアワー	佐久本：毎週月曜日3限目 佐久本研究室（北研2-1） ※遠隔授業期間においては、メール、MicrosoftTeams を利用し相談を行う（メールアドレス：sakumoto.k@ocjc.ac.jp）
課題に対するフィードバック方法	ポートフォリオを回収・採点し、試験期間を利用して学生へ返却する。